

AJCE 会報

コンサルティング・エンジニア

特集：FIDIC2009ロンドン大会



Vol.33 No.2

平成21年11月・秋号

巻頭言

FIDIC の活動の日本への展開

日本工営株式会社 代表取締役社長

AJCE 副会長 廣瀬典昭 01

FIDIC 理事就任挨拶

株式会社オリエンタルコンサルタンツ 代表取締役社長

AJCE 会長 廣谷彰彦 02

ASPAC 理事に就任して

株式会社建設技術研究所 常務取締役

AJCE 副会長 内村 好 03

特集：FIDIC2009 ロンドン大会報告

04

シリーズ・海外だより その2

面倒？ 贅沢？ 移動の足はもっぱらタクシー

中央開発株式会社

AJCE 広報委員会 小林大祐 47

国際活動委員会

FIDIC 年次報告書 2008-2009 版 (The FIDIC Annual Review for 2008-2009) の紹介

訳責：国際活動委員会 IFI 分科会 48

技術研修委員会

2009 年 AJCE 年次セミナー報告

「世界に飛躍するコンサルタント - 将来市場の展望 - 」

技術研修委員会 技術研修推進分科会 51

倫理委員会

八千代エンジニアリング株式会社のコンプライアンス経営展開

倫理委員会 54

FIDIC 契約約款改訂の動向

FIDIC Asia-Pacific Contract Users ' Conference 参加報告

日本工営株式会社

AJCE 技術研修委員会副委員長 林 幸伸 57

～私たちのワークスタイル～

「女性コンサルタントのキャリアパスとワークライフバランス」

日本工営株式会社

AJCE Young Professional Group 59

新会員の紹介

63

事務局報告

64

編集後記

66

巻頭言

FIDIC の活動の日本への展開

日本工営株式会社 代表取締役社長
AJCE 副会長 廣瀬典昭

私は、今年の5月に理事副会長に選任されAJCEの活動に参加することになりました。その大きな活動のひとつとして今回初めてFIDICの年次大会に出席しました。この会報にも特集が組まれていますが、大会は9月にロンドンで開催され、今回のテーマは気候変動をはじめとする様々な世界的な課題に対して技術者としてこれを克服するための持続的な努力の道筋をつけることでした。

大会中に各セッションで、議論された中での印象として2点をあげると、まず第一は当然ながら主題に対する議論で、気象変動にともなう様々な事象、人口増加にともなう都市への人口集中、不透明な経済環境のもとでの雇用や貧困問題などは世界各地で引き続き人類が直面している課題であり、これに対してコンサルタント技術者は如何に対処すべか、いやむしろそのためのリーダーとしての役割を演じ、社会や政治に向かっての発言が必要であるといった主張が語られました。地球規模での人類の共存という目から見れば、この地球環境という面から見た社会資本の整備や改善は、それを実行する財源の制約はあるものの、確実に実行していかなければならない課題であり、技術者が前面に立って働かなければならない局面であるという認識は各国共通したものでした。いま日本国内で社会基盤整備にかかわる技術者は公共事業批判の名の下に様々な苦境に直面していますが、このような世界的な危機に対して技術的専門家の活用が不可欠であることを、日本においても改めて主張していかなければならないと感じました。

もうひとつの議論は、訪米諸国のコンサルタント

産業において人的資源の不足、すなわち、学生が集まらない、他産業へ逃げていく、中途退社が多いといった現象があるということで、教育訓練への投資の必要性が強調されていました。これはまさに日本で起こっていることと同じで、成熟した社会での一般的な現象かも知れません。この産業を魅力あるものとすることや、教育訓練への投資などは企業の収益性にも絡み、品質・技術による選定(QBS)の必要性の議論につながっています。一方、途上国からはローカルコンサルタントの育成や活用の必要性が強調され、ちょうどわが国の地域コンサルタントの主張と類似したものとして理解できました。

FIDICは契約にかかわるガイドラインや標準仕様書などの出版において非常に大きな影響力を持っています。各国ともそれぞれ独自の契約体系や事業執行形態をとっていますが、欧米諸国は古くから海外市場で事業を展開してきておりFIDICの体系に精通し、国内でもその精神がよく理解されているようですが、日本国内においては、契約体系や発注者とコンサルタントや建設業者との関係が日本独自の方法であるということが強調され、FIDICの体系の理解があまり浸透していないし、よく知られてもいないと思われれます。これからグローバル化が進展する中、世界に進出するためには国内の建設業界や技術者がFIDICの活動をもっと知る必要があることはもちろんですが、むしろ国際的視点から見た国内の建設市場の状況を認識してその改革に向けていくための大きなよりどころとしてFIDICを活用していく必要があると感じた次第です。

FIDIC 理事就任挨拶

株式会社オリエンタルコンサルタンツ 代表取締役社長

AJCE 会長 **廣谷 彰彦**

このたびのFIDIC2009年年次総会（ロンドン）に於きまして、理事選挙に立候補し、皆様のご支援をいただき、理事に選任されました。まことにありがとうございました。森村武雄氏と石井弓夫氏に続き、日本からは3人目となります。任期4年を微力ながら、世界のコンサルタントのますますの発展、わが国コンサルタントの世界的な展開に向かって、努力を尽くす所存です。

当協会は、1991年にFIDIC年次総会を東京に招聘しました。私のAJCEとの関わりのスタートでもあります。その後、若手の集まり（FIDIC研究会：通称「F研」の実態は、40歳以上オジンのマジメな飲み会）にお招き戴き、多くの方々との親交を通して、より深く、コンサルタント道を辿らせていただけてきました。この間、AJCE理事、副会長、会長を経験させていただきながら、コンサルタント産業の振興へ向けた、様々な課題へ挑戦してきました。

FIDIC年次総会には、1994年のシドニー大会以降、本年のロンドン大会まで毎年参加しています。FIDICでは、業務実施委員会（Business Practice Committee）委員、アジア太平洋地域会議議長、セミナーでの発表、パネルディスカッション議長、など、多様な役割を戴きました。また、FIDIC Quality of Constructionや、FIDIC PFI Guideなどの発刊にも携わりました。これらの活動を通じて、AJCEの関係者には大変にお世話になりました。

さて、日本のコンサルタントは大きく二つの課題に直面しており、それらの解決なしのままでは、世界展開が望めないと思われます。

そのひとつは、世界的視野における経験不足です。多くの日本のコンサルタント技術者が国内業務を中心に経験を積む中、業務関係契約書が国内専門であり、



Dick Kell 元会長と演壇にて

国際環境における契約関係図書と大きく異なる点は、いわゆる「ガラパゴス化」を彷彿とさせます。日本国内だけの契約関係に卓越していても、世界に打って出ることはできません。同じような状況として、コンサルタントの役割が国内においては非常に限られていること、様々な事業推進方法が論じられている世界から、日本の環境が強く閉ざされていること、などなど、閉鎖されている国内環境の例は、限りがありません。

二つ目に、コンサルタントの契約関係です。価格を中心にした入札問題に始まり、業務遂行途中に於ける甲乙関係（不明な点は発注者の裁量による）、成果に対する責任問題などが、コンサルタントの行動を萎縮させ、結果として我々の本領を発揮し切れていないジレンマがあります。

これら様々な国内事情の解決に対して、AJCEは情報発信源、議論の場、など、多くの解決に貢献できる組織です。FIDIC理事の立場から、このようなAJCE活動に、いくらかでも貢献できるよう、まい進する所存です。

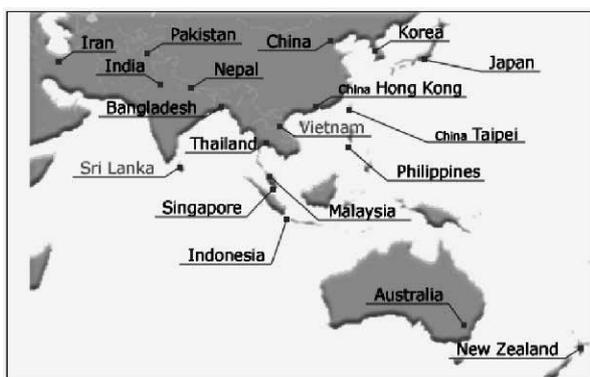
ASPAC 理事に就任して

株式会社建設技術研究所 常務取締役

AJCE 副会長 内村 好

ASPAC とは

ASPACはFIDIC Associations in Asia-Pacific Region (FIDIC アジア太平洋地域会員協会連合) の略であり、アジア太平洋地域に属するFIDIC加盟21協会(内1協会は準会員)の連合組織です。アジア太平洋地域といっても東アジア、豪州から中東、中央アジアに及ぶ広汎な地域を包含しています。FIDICは加盟協会の拡大に伴って、地域ごとの特色を生かした活動を重視しつつあります。



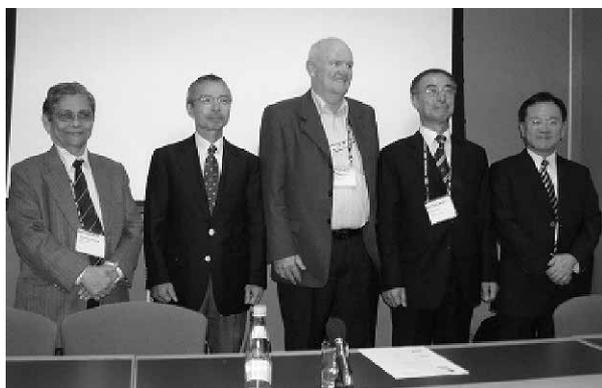
09年に Azerbaijan と Uzbekistan (準会員) 加盟

ASPACの主要な活動は、域内の協会の情報交換やセミナーの開催、共通する課題のFIDICへの提言などです。2007年から2009年までの3年間AJCEの廣谷会長がASPAC議長を務め、事務局もAJCEにおかれ国際活動委員会の中にASPAC分科会を設けて実質的な活動を行いました。この間にニュースレターの発刊やHPの開設、韓国やバングラデシュでのセミナーの開催など活動が活性化しました。09年9月からは豪州のDennis Sheehan氏が議長となり、事務局も移行することとなりました。

ASPAC 理事として

09年9月のFIDIC ロンドン大会時に開催されたASPAC総会において、廣谷会長の後を受けて私が3年間ASPAC理事を務めることとなりました。正直言って海外業務の経験もなく拙い英語力で不安がないわけではありませんが、逆にそこを強みとしてASPAC活動に貢献する所存です。今回8名の理事中、議長を除く7名が新任であり、まずはメールやいろいろな機会を通じて各国の理事との個人的な人脈も構築し情報交換することからスタートしたいと考えています。若いエンジニアの情報交換の場であるASPAC-YPF (Young Professionals Forum) も発足しました。ASPACの目指すところは世界と地域の連携、品質・技術による選定(QBS)の推進、コンサルタントエンジニアの資質の向上です。

幸い廣谷会長がFIDIC理事に当選されたこともありASPACに対し心強い支援も得られることとなります。AJCE会員各位、特に関係する委員会の委員各位のご支援をお願いする次第です。



新 ASPAC 理事 (ASPAC 総会にて)

特集：FIDIC2009 ロンドン大会

目次

FIDIC2009 ロンドン大会 総括	廣谷 彰彦	5	Seminar7 A place at the political table and a Voice for the industry		
プログラム		6	セミナー7 産業のための発言	河上 英二	26
FIDIC2009 ロンドン大会 参加者		7	Seminar8 Promoting Skills and Raising Standards		
FIDIC と日本のコンサルティングエンジニア			セミナー8 スキルそして技術水準の向上に向けて	林 幸伸	27
	石井 弓夫	8	Seminar9 A Coordinated, Unified Approach		
2009 FIDIC General Assembly Meeting (GAM)			セミナー9 同等で、統一されたアプローチ	竹村 陽一	28
2009年 FIDIC 総会	内村 好	9	Industry Perspective Session		
ASPAC Events in London			産業の将来見通し	宮本 正史	30
FIDIC ロンドン大会における ASPAC 関連イベント			Actions for FIDIC		
	渡津 永子	10	FIDIC がとるべき行動	金井 晴彦	32
FIDIC YPF Events in London			Actions for Member Associations		
FIDIC ロンドン大会における YPF 関連イベント			会員協会がとるべき行動	廣瀬 典昭	33
	中島 隆志	13	Actions for Member Organizations		
Plenary Session Opinion Leaders			コンサルタント業界がとるべき行動	藤岡 和久	34
基調講演 オピニオン・リーダー	春 公一郎	15	Social Program		
Seminar1 Global Challenges and Response			懇親行事	赤坂 和俊	35
セミナー1 地球的規模の課題とその対応策			Presidents Meeting		
	林 幸伸	17	会長会議	廣谷 彰彦	40
Seminar2 Mobilising Engineering Resources			FIDIC Business Practice Committee (BPC) Meeting		
セミナー2 エンジニアリング資源の集結・動員			ビジネス・プラクティス委員会	宮本 正史	41
	狩谷 薫	18	FIDIC Sustainable Development Committee (SDC) Meeting		
Seminar3 Future Funding of Infrastructure			持続可能な開発に関する委員会	狩谷 薫	42
セミナー3 将来のインフラ整備のための財源			Risk & Liability Committee (RLC)		
	金井 恵一	20	リスク&ライアビリティ委員会	蔵重 俊夫	44
Plenary Session Clients' Perspectives			Directors & Secretaries Meeting		
基調講演 クライアントの展望	河上 英二	21	事務局長会議	山下 佳彦	45
Seminar4 Regional and Country Hotspots			FIDIC-2009 ロンドン大会の参加報告		
セミナー4 地域、国における開発の焦点	藤江 五郎	22		田畑 彰久	46
Seminar5 Sector Hotspots					
セミナー5 分野別ホットスポット	遠山 正人	24			
Seminar6 Localised Mega Projects					
セミナー6 地域化した巨大プロジェクト	蔵重 俊夫	25			

特集：FIDIC2009 ロンドン大会

.....

特集：FIDIC2009 ロンドン大会

FIDIC2009 ロンドン大会 総括

株式会社オリエンタルコンサルタンツ 代表取締役社長
AJCE 会長 廣谷 彰彦

1. はじめに

(社)日本コンサルティング・エンジニア協会(AJCE)は、日本のコンサルタントの代表として、国際コンサルティング・エンジニア連盟(FIDIC)に加盟している国内唯一の組織である。

FIDICは、世界各国・地域・経済のコンサルタント協会を会員とし、事業にかかる契約文書の発行をはじめ様々な活動を展開し、コンサルタント産業の普及・発展に努力している。

AJCEでは、このようなFIDICとの連携を深めながら、選定方法をはじめコンサルタントが抱える課題の検討・提案を積極的に行うとともに、そこから得られる各種情報を、会員の皆様を通じて、顧客、また広く国民の皆様に向け、提供、普及、啓発を行っている。

2. 大会概要

今年のFIDIC年次大会は、イギリス・ロンドンにおいて、2009年9月13日～16日の会期で開催された。今年度は、“Global challenges - Sustainable solutions ~世界の挑戦、持続可能な解決策~”をテーマに、世界70もの国と地域から600名を超える参加者がこの歴史ある都市に会した。日本からは、AJCE会員と同伴者、合計31名が参加した。

今大会では、上述の大会メインテーマのもと、Industry Challenges and Responses、Geographic and Sector Hotspots、A More Agile, Responsive Industryの3つのサブテーマに別れ、合計35名のスピーカーが各テーマに沿った講演を行った。各セッションの場では、

講演者と参加者が一体となって、有意義で活発な議論が展開されていた。

なお大会前日の9月12日には、FIDIC常設委員会が開催された。現在FIDICには9つの委員会が設置されており、AJCE会員はそれぞれ委員会に参加し、その活動に大きな貢献を果たしている。今大会においても、早朝から多数の方に委員会活動に参加頂き、AJCEの存在感を一層高めて頂いた。

またAJCEは、2007年以降3年に渡りFIDICのアジア・太平洋地域組織であるASPACの議長国を努めてきた。今大会はその最終年度にあたり、定例の理事会、総会において、新たな議長と理事の選出、及び活動総括を行った。また、ネットワーキングランチにおいて、地域のメンバーが抱える問題の共有、情報交換を行い、交流を更に深めることができた。

また今大会では、昨年度に引き続き、若手技術者の活発な活動・発信が随所に見られた。AJCEから提案したASPAC-Young Professionals Forum(YPF)設置についても、YPF-Open ForumやASPAC関連会議で報告され、多数の支持を得た。

3. 終わりに

今大会は、世界同時不況後初めての大会であったが、その影響を嘆く声よりも、不況により対応の遅れが懸念される、または不況からの脱却の鍵となる「低炭素社会の実現」に向け、コンサルタント技術者が果たすべき役割や業界として挑戦すべきこと、成功事例等について、参加者の間で広くアイデアを共有することができた。

また2013年に創立100周年を迎えるFIDICが、コン

サルタント産業の声・牽引役として、より一層のリーダーシップを発揮していくことはもちろん、メンバー協会と連携し、それぞれの地域にあった解決策を提供していくことが確認された。

我々コンサルタントは、目まぐるしく変化する社会や人々のニーズを的確に読み取り、また自ら変革し続け、持続可能な社会の発展に寄与していかなければなら

ない。

こうした責務を会員の皆様と共有し、クライアントやユーザーの皆様の信頼獲得、コンサルタントの地位向上に向けて、国内外へ向けた提案を積極的に行っていきたい。

プログラム

FIDIC-2009 ロンドン大会

開催期間：2009年9月13日(日)～16日(水)

会場：イギリス・ロンドン

Queen Elizabeth II Conference Centre,

メインテーマ：Global challenges - Sustainable solutions

～世界の挑戦、持続可能な解決策～

サブテーマ：Industry Challenges and Responses

Geographic and Sector Hotspots

Geographic and Sector Hotspots

参加者：約70ヶ国、600人超(日本からは32人)

プログラム：10日からFIDIC理事会・常設委員会・会長会議等が開催されました。

THU 10

FIDIC Executive Meeting, Part 1

FRI 11

FIDIC Executive Meeting, Part 1

FIDIC Young Professionals Management Training

Programme (YPMTP) working sessions

SAT 12

FIDIC YPMTP working sessions

Directors & Secretaries Meeting

SUN 13

FIDIC YPMTP working session

FIDIC Member Committee Meeting

FIDIC Integrity Management Committee Meeting

FIDIC Business Practice Committee Meeting?

FIDIC Sustainable Development Committee Meeting

FIDIC Capacity Building Committee Meeting

FIDIC Risk and Liability Committee Meeting

FIDIC Presidents Meeting

FIDIC Group of Africa Member Associations(GAMA) Executive Meeting?

Young Professionals Steering Committee Meeting

Welcome Reception: Royal Courts of Justice

MON 14

Opening Ceremony

Plenary Session Opinion Leaders

Seminar 1 Global Challenges and Responses

Seminar 2 Mobilising Engineering Resources to Respond

Seminar 3 Future Funding of Infrastructure

FIDIC Asia-Pacific Member Associations (ASPAC) Executive Committee Meeting

Young Professionals Open Forum

TUE 15

Plenary Session Clients

Seminar 4 Regional and Country Hotspots

Seminar 5 Sector Hot Spots

Seminar 6 Localised Mega Projects



会場：Queen Elizabeth II Conference Centre

FIDIC ASPAC Networking Lunch
 Seminar 7 A Place at the Political Table and a Voice for the Industry
 Seminar 8 Promoting Skills and Raising Standards
 Seminar 9 Co-ordinated Unified Approach
 FIDIC ASPAC General Assembly Meeting
 FIDIC GAMA General Assembly Meeting
 Future Leaders Session

WED 16
 Industry Perspective Session
 Actions Seminar Member Associations
 Actions Seminar Member Organisations
 Final Conference Reports
 FIDIC General Assembly Meeting
 Gala Dinner: Grosvenor House

FIDIC2009 ロンドン大会 参加者

順不同 敬称略

番号	会社名	所属 役職	氏名
1	賛助会員		竹村 陽一
2	早房技術士事務所	所 長	早房 長雄
3	日本工営㈱	代表取締役社長	廣瀬 典昭
4	日本工営㈱	民活プロジェクト部 部長	林 幸伸
5	日本工営㈱	海外事業本部 エネルギー開発部 部長	金井 晴彦
6	㈱オリエンタルコンサルタンツ	代表取締役社長	廣谷 彰彦
7	㈱オリエンタルコンサルタンツ	執行役員 GC事業本部副本部長	藤岡 和久
8	㈱オリエンタルコンサルタンツ	社会環境事業部環境グループ	渡津 永子
9	㈱建設技研インターナショナル	道路交通部 主幹	中島 隆志
10	いであ㈱	内部統制本部室長	田畑 彰久
11	田中宏技術士事務所	代表	田中 宏
12	㈱東京設計事務所	代表取締役副社長	宮本 正史
13	㈱東京設計事務所	東京支社長	狩谷 薫
14	賛助会員		藤江 五郎
15	㈱日水コン	河川事業部 副事業部長	藏重 俊夫
16	㈱日水コン	東部下水道事業部 副事業部長	春 公一郎
17	㈱日水コン	東部下水道事業部 技術第三課長	赤坂 和俊
18	㈱建設技術研究所	取締役会長	石井 弓夫
19	㈱建設技術研究所	常務取締役 東京本社長	内村 好
20	㈱建設技術研究所	企画本部 経営企画部 部長	金井 恵一
21	㈱建設技術研究所	企画本部 経営企画部 担当部長	河上 英二
22	㈱建設技術研究所	企画本部 国際部 部長	遠山 正人
23	シティユーワ法律事務所	弁護士	小泉 淑子
24	AJCE	事務局長	山下 佳彦

参加者	24 名
同伴者	8 名
合計	32 名

特集：FIDIC2009 ロンドン大会

FIDIC と日本のコンサルティングエンジニア

株式会社建設技術研究所 会長
元 AJCE 会長 元 FIDIC 理事 石井 弓夫

まず廣谷 AJCE 会長の FIDIC 理事、トップ当選にお祝いを申し上げたい。1986 年の森村副会長(当時)、2001 年の筆者(当時 AJCE 会長)に続き 3 人目の日本出身の理事が誕生したわけであるが、日本のコンサルタントの力がますます世界に貢献するようになってきたことを示しているわけで大変心強い。

この機会に、FIDIC が日本のコンサルタントの発展にどのように貢献してきたかを、筆者が AJCE に加わった 1988 年以降について振り返ってみよう。

1) FIDIC ワシントン大会 1989 年

AJCE は 1974 年に FIDIC に加盟したがその活動は必ずしも活発ではなかった。そこで 1991 年の東京大会招致を機に、1988 年から大々的な会員増強運動を行い、これに大成功したわけである。筆者はワシントン大会で「ハイテクとコンサルタント」のセッションの座長を命じられて初めて FIDIC 活動に入ったのであるが、コンサルティングエンジニアの「本山」としての FIDIC に接し、その高い権威と活動の重要性に感銘を受けたのであった。

2) FIDIC 東京大会 1991 年

東京大会では実行委員会事務局員として準備に加わったが、AJCE の皆さんの協力により大会は大成功を収めた。国内では AJCE と FIDIC を広く認識してもらうことに成功し、海外には日本のコンサルティングエンジニアの実力を示すとともに、日本文化の「粋」を知ってもらうことができた。

3) コンサルティングエンジニアの倫理

日本のコンサルティングエンジニアは、発足当時の技術は高いとは言えず、資本力も低かったのでコントラクター、メーカーの力を借りざるを得なかった面があった。ところが FIDIC に接してみて「独立性」ということがい

に重要な倫理であるか、それはコンサルティングエンジニアの命でもあることを知り、大きな感銘を受けたのであった。筆者は土木技術者であるが、先輩に、内村鑑三に連なる廣井勇(小樽港建設主任技術者)や青山士(パナマ運河、荒川放水路建設に従事)という大先輩がいて、彼らの言行がまさに「独立性」の倫理に繋がることをあらためて認識したのである。それ以降、私は「独立」を強く意識して行動するようになったのである。

4) 品質・技術による選定(QBS)と価格による選定(CBS)

我々は長年にわたって技術力による選定 QBS を主張してきたが成功しなかった。それは日本の法律が公共調達にコンサルタントの選定も含め価格競争 CBS で行うと規定しているためである。AJCE は 1997 年には Bill Lewis FIDIC 会長を招き QBS 普及のセミナーを開き、また建設コンサルタンツ協会 JCCA、海外コンサルティング企業協会 ECFA と協力して QBS の普及にさらに努力を続けた。その成果もあって 2005 年に公共工物品確法が制定され、公共調達に QBS を採用する道が開かれた。これは日本のコンサルティングエンジニアの大きな成果であり、国際的にも高く評価されている。

5) これからの課題 コンサルタント活動の統一

日本にはいくつものコンサルティングエンジニアの組織がありそれぞれがバラバラに活動している。唯一の例外が、QBS 実現へ向けての AJCE、JCCA、ECFA の協力であろう。コンサルタントを巡る問題はまだまだ未解決なものが多い。QBS の他にも、事業実施における役割、瑕疵責任、著作権などすぐにも協働して取り組むべき問題が山積しているのである。何とか、組織的な統一までは行かないにしても、ゆるい傘型の組織でいいから協働の方向へ進んで行ってほしいものである。

特集：FIDIC2009 ロンドン大会

2009 FIDIC General Assembly Meeting (GAM) 2009年 FIDIC 総会

株式会社建設技術研究所 常務取締役
AJCE 副会長 内村 好

1. 総会概要

開催日時：2009年9月16日(水) 16:00 ~ 17:00

開催場所：Queen Elizabeth Conference Centre,
London, UK

出席国：74カ国登録(出席はその約2/3)

日本代表団：廣谷会長、内村副会長、宮本副会長、廣
瀬副会長

2. 議事概要

2.1 2008-2009年活動報告

J.Boyd 会長の挨拶に引き続き、08年度ケベック大会の
総会の議事録、08-09年次報告書、08年会計報告・監査
が滞りなく承認された。2008年度の収入は2,909千SF
r スイスフラン(約260百万円)で07年度より4%の微増。
支出は2,706千SF r(約243万円)である。

2.2 入退会の承認

新たに下記の4協会が正会員として承認された。

セルビア：Association of Consulting Engineers in
Serbia

クウェート：Union of Kuwaiti Engineering Offices and
Consultant Houses

スーダン：Sudanese Engineering and Architecture
consultancy Association

レバノン：正式名称不詳

2.3 2010年の予算、会費の承認

2009年度の予算および各国協会の会費が承認され
た。収入は2,655千SFr、支出は2,785Frでいずれも09
年度予算の数%増である。

2.4 表彰

ASPAC 会議議長を3年間務めた功績を称えて廣谷会
長に感謝状が贈られた。

2.5 次期会長及び副会長選任、

今期で退任するカナダの John Boyd 氏の後任の次期
会長に米国の Greg Thomopoulos 氏が選出された。ま
た、副会長には英国の Geoff French 氏が選任された。

2.6 新理事の選出

退任する3名理事(カナダ、中国、インド)の後任に廣
谷会長も含めて5名が立候補したが、トップ当選の廣谷
会長のほかヨルダン、韓国の候補者が当選した。

2.7 2013年記念大会開催地の選定

FIDIC 創立100周年となる2013年大会開催地につい
ては、従来の立候補方式をとらずFIDIC本部に委員会
を作って検討した結果、バルセロナ(スペイン)とす
ることが報告された。

(今後の開催予定)

2010年 ニューデリー(インド) 9月12-15日

2011年 チュニス(チュニジア) 9月18-21日

2012年 ソウル(韓国)

2013年 バルセロナ(スペイン) FIDIC100周年)



感謝状を掲げる廣谷会長

特集：FIDIC2009 ロンドン大会

ASPAC Events in London FIDIC ロンドン大会における ASPAC 関連イベント

株式会社オリエンタルコンサルタンツ 社会環境事業部 技師
AJCE 国際活動委員会 ASPAC 分科会 渡津 永子

1. 概要

ロンドン大会中の Asia-Pacific Member Associations FIDIC アジア太平洋地域会員協会連合(ASPAC)関連イベントは以下のとおりであった。

- a) 理事会：9月14日 16:00 ~ 17:00
- b) ネットワーキングランチ：9月15日
- c) 総会：9月15日 17:00-18:00

2. ASPAC 理事会

(1) 会議概要

日時：2009年9月14日 16:00 ~ 17:00

場所：Queen Elizabeth II Center,
West Long Room

出席者：廣谷議長、インド理事、パキスタン理事、オーストラリア理事、FIDIC インド理事

オブザーバー：Gregs Thomopoulos 次期 FIDIC 会長
山下 AJCE 事務局長、内村氏

(2) 協議事項

1) 新加盟国について

- ・ウズベキスタンとアゼルバイジャンから入会要請を受ける。ASPAC では入会規定は設けていないため、FIDIC の規定に準じて、ウズベキスタンを準会員、アゼルバイジャンを正会員として受け入れることを、総会に提案する。

2) ASPAC ルール改正について

- ・重要な案件でありメールで協議するのは難しい。今回の EC 選挙には適用しない。以下について総会に提案する。
- ・理事の人数の上限を設定。(5名以上8名以下)
- ・理事が総入れ替えにならないように任期をずらす仕組みを設ける。(再任理事の任期は2年とするなど)
- ・候補者の選定手順について明文化する。

3) 理事・議長候補者について

- ・今回は、候補者選定に関する規定がないため、候補者全てを受け入れる。(総会に提案)
- ・2) の議論を踏まえ、新理事の任期を以下のように提案する。

Ho Ig Kang, 韓国 (2009-2012)
Keshab M. Amatya, ネパール (2009-2012)
UCHIMURA Konomu, 日本 (2009-2012)
Chien-Chung Li, 台湾 (2009-2012)
Edmond Mirzakhanian, イラン (2009-2011)
Amitabha Ghoshal, インド (2009-2011)
Salvador P Castro, Jr フィリピン (2009-2011)

- ・新議長候補として Dennis Sheehan 氏を総会に推薦する。

4) 今後の ASPAC の活動について

- ・FIDIC 年次大会が ASPAC 地域で行われる年は、ASPAC 年次大会は開催しない。
- ・2011年については、総会においてホスト国の立候補を募る。



ASPAC 理事会の様子

3. ASPAC ネットワーキングランチ

(1) 会議概要

日時：2009年9月15日 12:30 ~ 14:00

場所：Queen Elizabeth II Center, Caxton

出席国：オーストラリア、中国、台湾、インド、日本、韓国、マレーシア、ニュージーランド、パキスタン、フィリピン、スリランカ、ベトナム、ウズベキスタン（計13カ国）

(2)内容

ASPAC加盟国を招いたネットワーキングランチにおいて、廣谷ASPAC議長より新加盟国の紹介(ウズベキスタン、アゼルバイジャン)、ASPAC理事立候補者の紹介がなされた。

続いて出席したMAの代表より、各協会における活動状況の報告がなされた。



ASPAC ネットワーキングランチの様子

オーストラリア

- ・ YPF 活動に力を入れている。

中国

- ・ 海外を参考にしながらコンサルタントの育成・基準類の作成を進めている。政府の「コンサルタント産業中長期計画」の作成支援、「コンサルタント業務管理規定」を作成中。

台湾

- ・ FIDIC のモジュールを活用し、セミナー、ワークショップ等を開催している。
- ・ 業界の地位向上のために政府との調整に勤めている。技術者間の交流活動を進めている。

インド

- ・ 業界/政府間の関係が変化した。特にコンサルタントとコントラクターの区別を明確化した。
- ・ 海外との連携を強めた。
- ・ 11月にFIDICプログラムを実施する予定。

日本

- ・ 協会の活動として、QBSの推進、オーストラリア協会と

の若手技術者交換プログラムの実施、セミナーの実施、ウズベキ、アゼルバイジャンとのMOUの締結等を報告。

韓国

- ・ 国際会議、海外市場視察に積極的に参加。
- ・ 10月に24カ国から650名が参加する国際フォーラムを開催予定。また中、韓、日の合同会議を開催予定。

マレーシア

- ・ 品質・技術による選定(QBS)推進に取り組み10年ほど。近年の事業で政府がQBSの採用を認めることとなり、ロビー活動の成果が出た。
- ・ 技術者の専門性向上のため、登録制度の策定に取り組んでいる。YPFを2年前に設立した。

ニュージーランド

- ・ 協会には197企業9000人が加盟している。協会の年次大会が盛大に開催された。
- ・ クライアントと良好な関係を築きつつあるいくつかの事業がある。(風力市場の開拓等)
- ・ 瑕疵責任に関する新しい法制度が検討されている。標準的な契約に関する文書が改訂。

パキスタン

- ・ セミナーを実施し技術者育成に努めている。またパキスタン協会(ACEP)奨学金制度を導入し、主にアメリカに留学生を送っている。
- ・ 中東方面への技術サービスの輸出に力を入れている。コンサルタント登録制度も進行中。
- ・ QBSについて首長への報告を準備中。など

フィリピン

- ・ FIDIC Contract セミナーを実施。主に地方機関向け。法律専門家とも共同して活動。
- ・ 対政府活動として、資金の最大限の有効利用や調達プロセスの向上(QBS、品質・技術と価格による選定：QCBS)を働きかけている。
- ・ 技術者育成については、プロジェクトマネジメント能力向上プログラム(国際協力機構：JICA)を実施中。
- ・ Young Professionals Forum(YPF)の組織化を進めている。

スリランカ

- ・ セミナー、ワークショップ等、技術者育成活動を実施

- ・政府にコンサルタントの地位向上働きかけ。
- ・FIDIC大会他、国際会議へ参加している。
ベトナム
- ・アジア開発銀行(ADB)/JICA 等のセミナー、FIDIC Contract Training コース等に積極的に参加している。
- ・FIDIC/ASPAC への要請として、大会参加に対する資金的支援、長期的トレーニングに対する支援を希望する。
ウズベキスタン
- ・2007年12月協会設立(24企業、約700人の会員)現在はFIDICの準会員。
- ・トレーニングプログラムで協力したい。

4. ASPAC 総会

(1) 会議概要

日 時：2009年9月15日 17:00 ~ 18:00

場 所：Queen Elizabeth II Center,

出席者：廣谷議長、インド理事、パキスタン理事、オーストラリア理事、FIDIC インド理事

出席国：オーストラリア、中国、台湾、インド、日本、韓国、マレーシア、ニュージーランド、パキスタン、フィリピン、ベトナム、ウズベキスタン、アゼルバイジャン(計13カ国)

オブザーバー：Enrico Vink FIDIC ディレクター 他

(2) 協議事項

会議時間は1時間半を予定していたが、会場の都合により1時間に短縮された。

廣谷議長と新議長に選出された Sheehan 氏の息のあった連携により、支障なく会議は進行された。

1) 新加盟国について

- ・FIDICの規定に準じ、ウズベキスタンを準会員、アゼルバイジャンを正会員として受け入れることが、承認された。

2) 理事・議長の選出について

- ・理事候補者7名及びその任期について、理事会提案が承認された。続いて新議長とその任期について、理事会提案が承認された。
- ・新理事会は以下のとおりである。

Dennis Sheehan、オーストラリア(2009-2012)

Chair

Ho Ig Kang, 韓国(2009-2012)

Keshab M. Amatya, ネパール(2009-2012)

UCHIMURA Konomu, 日本(2009-2012)

Chien-Chung Li, 台湾(2009-2012)

Edmond Mirzakhanian, イラン(2009-2011)

Amitabha Ghoshal, インド(2009-2011)

Salvador P Castro, Jr, フィリピン(2009-2011)

3) ASPAC ルール改正について

- ・ルール改正については新理事会において検討し、次回提示する旨が新会長から示された。

4) 今後の ASPAC の活動について

- ・ASPAC2010年次大会は開催しない。FIDIC デリ大会の盛り上げに全力を注ぐ。(FIDIC 事務局から ASPAC メンバーに特化したプログラムを検討するというコメントあり)
- ・2011年については、ホスト国としてベトナムが立候補し、承認された。

5) ASPAC 活動報告

- ・事務局より、能力開発プログラムに関する事項、ASPAC 若手技術者フォーラムの設立に関する報告、ASPAC 活動計画2007-2009について報告した。
- ・ASPAC-YPF については、デリ大会において FIDIC-YPF とともに独自のプログラムを実施してはどうかという提案がなされた。

総会の最後に、廣谷氏のこの3年間のリーダーシップに対し、理事及びメンバー国から惜しみない拍手が贈られ、また FIDIC 総会においても FIDIC 会長より感謝状が贈られた。



引継ぎの握手を交わす廣谷議長と Sheehan 新議長

5. 終わりに

ASPAC に相応しく、今大会も最後まで予想のつかない展開の連続であった。理事が8名とは!

事務局としては、いたらない点が多々あったが、廣谷

議長や理事の方々、AJCE 山下事務局長はじめ AJCE の委員会、事務局の皆様を支えられ、なんとか3年間を無事終えることができた。

ここに改めて感謝の意を示したい。

特集：FIDIC2009 ロンドン大会

FIDIC YPF Events in London FIDIC ロンドン大会における YPF 関連イベント

株式会社建設技研インターナショナル 道路・交通部 主幹
AJCE 国際活動委員会 ASPAC 分科会 中島隆志

1. FIDIC YPF Steering Committee

日時：2009年9月13日 11:00 ~ 12:00

場所：Grovsnor House

議長：Alex Eyquem, UK

参加者：Alex Eyquem, UK Nader Shokoufi, Iran Prashant Kapila, India Liu Luobing, China Selena Wilson, Canada Takashi Nakajima, Japan Tien Feng, China Vera Petrova Asenova (Skype) Jessica O'Sullivan (Skype) Michele Kruger (Skype)

1.1 来年の活動方針

- ・ Chair : Nader Shokoufi
- ・ Vice Chair : Michele Kruger
- ・ 新規 SC 募集中
- ・ FIDIC YPF News letter を継続するが、担当者を代える。

1.2 ASPAC Young Professionals Forum(YPF)

- ・ ASPACYPF の運営委員会(Steering Committee)が立ち上がった。
- ・ New Dehli 大会では FIDICYPF に協力し、より ASPAC からの発表者を増やしたい。
- ・ 今後は昨年どおり Skype Meeting を実施するが、情報の共有と活動内容の理解を進めるために FIDICYPF と共同で行う。
- ・ FIDICYPFSC のミーティングの後に 30 分程度として ASPAC について議論をする。

- ・ コーディネータは中島が担当する。

1.3 事後記録

- ・ 大会中韓国から ASPAC YPF Steering Committee に推薦者を出したいとの申し入れがあった。
- ・ 15日のASPAC総会において Enrico 氏から New Dehli 大会において FIDIC YPF と共同でプログラムを作ったらどうかといった要請があった。

2. YPF OPEN FORUM

日時：2009年9月14日 16:30 ~ 17:30

場所：QEII

議長：Nader Shokoufi

参加者：Alex Eyquem, UK ANDRIES VAN WAGENINGEN, South Africa Lucas-Jan Ebels, South Africa Santino Pirillo, Canada 中島隆志、日本 Tien Feng, China

2.1 プログラムの概要

若手エンジニアによる各国の若手エンジニアグループの活動報告がなされた。

下記のタイトルの発表がなされた。

(1) Alex Eyquem, UK

FIDIC YOUNG PROFESSIONALS " OPEN " FORUM

(2) ANDRIES VANWAGENINGEN, South Africa
MENTORING IN PRACTICE

(3) Lucas-Jan Ebels, South Africa

Young Professionals ' Forum South Africa

(4)Santino Pirillo,Canada

Partnership Approach to Building Trust, Client Satisfaction and Improving Industry Culture

(5)中島隆志、日本

ASPAC-YPF (Young Professional Forum)

(6)Tian Feng, China

FIDIC YOUNG PROFESSIONALS OPEN FORUM

2.2 Alex Eyquem, UK

FIDIC YOUNG PROFESSIONALS“ OPEN ” FORUM

Alex は 2008 年 ~ 2009 年の FIDICYPF の Chair を務めた。FIDICYPF について全般的な内容について説明がなされた。

2.3 ANDRIES VANWAGENINGEN, South Africa
MENTORING IN PRACTICE

Kv3 社における若手技術者育成に関する活動報告。当社ではメンタリングを若手育成に導入し、能力向上に成果を上げている。

2.4 Lucas-Jan Ebels, South Africa

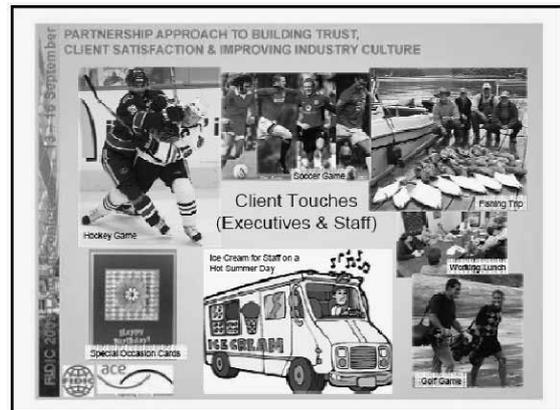
Young Professionals ' Forum South Africa

南アフリカ YPF の活動概要について報告がなされた。国内の活動は地域支部が中心となっている。FIDIC とは地域部を束ねる中央部が窓口になっている。若手技術者が、コントラクター、発注者と共同で実施。若手(中学生、高校生等)を工事現場に招待し、エンジニアリングの仕事は YP が中心になって紹介。

2.5 Santino Pirillo,Canada

Partnership Approach to Building Trust, Client Satisfaction and Improving Industry Culture

「クライアントと信頼を築くこと」をテーマとした非常に基本的であるが斬新的な発表であった。クライアントと仲良くなる方法、・ホッケー観戦、・サッカー観戦、・つり等のイベント開催、・招待カード猛暑のときのアイスクリーム差し入れ(打ち合わせ時)



2.6 中島隆志、日本

ASPAC-YPF (Young Professional Forum)

ASPAC-YPF の設置について進捗報告がなされた。

2009 年 - 2010 年の活動計画 1.FIDICYPF ニュースレターに投稿 2.2010 デリ大会の支援 3.YPF ニュースレターの配信 4.FIDIC キャパシティディベロプメントとプログラムとの協力

2.7 Tian Feng, China

FIDIC YOUNG PROFESSIONALS OPEN FORUM



中国におけるYP活動の報告。第一回YPエクセレント賞の授与が行われた。会員企業から400名の若手技術者の推薦があり、その中から選ばれた。24人が選定された。この活動は中国有名紙にも取り上げられ、大々的に報道された。



特集：FIDIC2009 ロンドン大会

Plenary Session Opinion Leaders 基調講演 I オピニオン・リーダー

株式会社日水コン 東部下水道事業部副事業部長
AJCE 技術研修委員会 FIDIC Policy 推進分科会 春 公 一 郎

日 時：2009年9月14日(月)11:00 ~ 12:30

場 所：クイーン・エリザベス・コンファレンス・センター

モデレータ：John Boyd(FIDIC 会長)

ゲスト：Chris Mole(英国・交通大臣)

講演者：Ian Tyler(英国・ボルフォア・ピーティ社)

Keith Clarke(英国・WS アトキンス社)

Brian Bruce(南アフリカ・マレー&ロバーツ社)

Peter Eiken(ノルウェー・スカンスカ社)

1. はじめに

ゲストを含め5人の方から、コンサルティング・エンジニアが直面しつつあるグローバル・チャレンジ並びにアクションの必要性に関する講演があった。スピーカの構成は、発注者サイドから1人、コントラクタから3名、コンサルタントが1名。講演の概要は以下の通りである。

2. キーノート・スピーチ【Chris Mole : 英国・交通大臣 (ゲスト)】

ロンドンではコンサルティング・エンジニアの生まれた場所である。インフラ整備にエンジニアは大きな役割を担っており、貢献度は高い。エンジニアなしにインフラはありえない。さらに環境に対する責任も負っている。

オリンピックを控えたロンドンでは、多くのプロジェクトが進行中である。とりわけ交通施設の整備には60億ポンドもの投資がなされる。これにより、新規整備のほか、既存の交通機関の改良がなされる。FIDICメンバーは深くこれにかかわっている。

これらのプロジェクトは、昨今の世界的不況を乗り越えて進めていかなくてはならない。この逆境は力を蓄積すべき時でもある。英国は、エネルギー効率の改善について早い時期からコミットしてきた。より環境により未来を築くため、持続可能なインフラに投資する必要がある。

たとえば、鉄道に投資して、客能力を2倍にする計画だ。南北を結ぶ高速鉄道が8年で完成する見込みであるが、これは日本の新幹線のようなもので、12月には全面的な運用に入る。また、オリンピック・パークでは、資材の83%(対重量比)がリサイクル材である。

コンサルタントは、これらの全側面にかかわり、顧客に対してアドバイスしていくことが大切だ。未来を設計するキープレイヤーになる必要がある。

3. キーノート・スピーチ【Ian Tyler、ボルフォア・ピーティ社(建設)、英国】

インフラというのは長期間の投資と言え、持続可能性には持続可能かつシンプルであることが求められる。多くのプロジェクトは、たとえそれがプロジェクトとしては良いものであったとしても、サステイナブルとはいえない場合が多い。持続可能性を高めるような解決策が必要だ。

会社の持続可能性も大切な視点だ。明日のリーダーとなるためには、プロセスのイノベーションが求められる。キーワードは、持続可能性、環境配慮、そして倫理である。

コンサルタント企業が次の10年間で成功するための鍵は、競争に対する武器を持つことであり、それは、「コストダウン」「長期の持続可能性を確保できる能力」「生産性や効率性の向上」「エンジニアリング以外に関する新たなスキル」であろう。

4. 低炭素経済を実現する【Keith Clarke、アトキンス社(コンサルタント)、英国】

前代未聞のリセッションはますます悪化している。これは、今後5～10年の間、影響を残すだろう。政府も、好景気のときにはあまり積極的でなかったが、現在は、景気刺激のため多くの対策を実施している。

とりわけ、低炭素型の社会を構築していくことが重要だ。これについては、包括的な数値目標が設定されており、2050年までに80%の温室効果ガスを削減しなくてはならない。これは実に挑戦的な目標であり、エンジニア社会の尽力が不可欠だ。

では、どのようにして目標にたどり着けばよいのだろうか。進捗は遅れており、手戻りもある。補助金等の政策も必要になるし、基準も変えていく必要がある。

しかしながら、これらの取り組みがうまくいき始めれば、10年後にはチャンスとなるだろう。

われわれエンジニアは今、スタートラインに立っている。自分たちができることを早急に、顧客に対して提案していかなくてはならない。

5. 世界的挑戦に持続可能な解決策を【Brian Bruce、マレー&ロバーツ社(建設)、南ア】

新たな世界でのエンジニアの役割はどのようなものか。南アフリカのコンサルティング・エンジニアは世界各地で業務を行っている。

20世紀に南アフリカは多くの矛盾を生み出してきた。貧困と富裕、瀟洒な町並みとスラム。これらを解消していくのがわれわれの課題である。

人口問題も深刻である。2020年には総人口の70%が都市部に住むと言われている。加えて、グローバリゼーションと民主化の波が押し寄せている。

また、人類全体の便益のためには、自然の力、天然の材料を活用していかなくてはならない。夜の衛星写真を見ると、欧州が明るくきらめいているのに対して、アフリカは暗闇である。この1000年もの間、社会開発やインフラに対する投資は地球の半分に対してのみ行われてきた。将来はその逆になるだろう。

民主化の波の中で、人材や教育の開発が必要だ。いまや、エンジニアの75%を黒人が占めるようになったが、なお一層過去の人種政策という負の遺産を克服していかなくてはならない。

6. 我々はどこに向かっているのか【Peter Eiken、スカンスカ社(建設)、ノルウェー】

経済危機に伴い、スカンスカ社では多くの人員を対象にレイオフを実施した。今後、企業はコストを削減し、品質を向上するとともに、変化に対応しうる技術を身につけて行かねばならない。

建設業ではスペシャライズとともにグローバル化、プロジェクトの複雑化が進んでおり、総合的なビジョンを持つエンジニアの必要性がますます高まっている。特に、プロセス・マネジメントの強化が重要だ。

CO₂排出量の削減も重要課題だ。スカンスカ社は、エンパイア・ステート・ビルの子会社である米国事務所において、エネルギー消費量を70%削減し、LEEDプラチナの認証を取得した。

また、スカンスカ社では、「5つのゼロ」をスローガンとして、対策を推進している。すなわち、利益を失うことなく、環境上の事故をゼロとし、工事における事

故を防ぎ、汚職などの倫理的違反をなくすとともに、欠陥をゼロとすることを目指している。

コンサルタントはもっと前面に出るべきである。我々はコンサルタントと長い目で見た協力関係を築くことを望んでいる。そして、各々の役割が変わりつつあることを認識している。コンサルタントには、コントラクタの声を聞き、時間を節約し安全性を高めるような方法について提案して欲しい。

7. おわりに

五者五様の切り口ではあったが、経済危機と温暖化対策という共通課題のもと、コンサルタントの今後の取り組みに対する示唆を戴いた。われわれ日本のコンサルタントにとっても、「総合力」や「環境及び企業の持続可能性」「コストダウン」といったキーワードは共通すると言えよう。

特集：FIDIC2009 ロンドン大会

Seminar1 Global Challenges and Response セミナー1 地球規模の課題とその対応策

日本工営株式会社 民活プロジェクト部部长
AJCE 技術研修委員会副委員長 林 幸伸

日 時：9月14日 14:00 ~ 15:30

場 所：Fleming

議 長：Jean Venable (英国土木学会)

参加人数：約300名?

1. プログラムの概要

英国土木学会の Venable 氏をモデレータとして、国際的コンサルタント企業3社の幹部と英国土木学会副会長が、人類が直面している課題についてその対応策を語るという構成であった。課題として取りあげられたのは、地球温暖化、エネルギー保全、クリーンエネルギー、人口動態の変化、大規模な都市化といった、現代の問題を象徴するテーマであった。

2. セミナーの内容

1) Stuart Glenn 氏 (Parsons Brinckerhoff 社長、英国)

「気候変動によるインフラへの影響」と「世界的な景気刺激策による気候危機 (climate crunch) の克服」が二つの大きな課題である。CEの責務は、対候性の高いインフラ整備と人間本位のインフラ開発である。このためにはリスクの公平な分配とプロジェクトサイクルの全過程におけるサステナビリティを、CEの強いリーダーシップにより実現する必要がある。PB社が取組んでいる

プロジェクト事例として、イラクの電力プロジェクト、メルボルンの高速道路プロジェクト、オーストラリアの環境リスク配慮インフラ計画が紹介された。

2) Paul Jowitt 氏 (英国土木学会副会長、英国)

サステナブルな都市を実現するためには健全なインフラ開発 (healthy infrastructure) が不可欠である。2025年には世界人口は80億に達し、46億人が都市部に集中すると予測されており、これは特に開発途上国で深刻な問題となる。国連ミレニアム開発目標の8つの目標のうち6項目は人間の健康や福祉に関わっており、都市開発はより人間重視の視点で計画することが求められる。

3) Keith Howell 氏 (Mott MacDonald 取締役、英国)

世界的課題は「平和構築」、「政治安定」、「金融システム改革」、「貧困対策」、「腐敗」、「人口増加」、「生活の質」、「気候変動」である。コンサルティングエンジニアとしては、「サステナビリティの原則を堅持すること」、「自身の行為と期待を再検証すること」、「プロジェクトに起因する影響を分析すること」、「プロジェクトや設計を異なる視点から再確認すること」、「設計に低炭素社会を考慮すること」が挙げられる。MM社の取組として、「ボード・コミットメント」、「サステナビリティ・タスクフォースの設立」、「プロジェクト・サステナビリティレビュー

一の実施」,「レトリックではなく事実の尊重」,等が紹介された。

4) Tom Smit 氏(Royal Haskoning 取締役、オランダ)

気候変動に起因する海面上昇は、デルタ地帯を有するオランダにおいても深刻な問題である。革新的解決を図るためにオランダのエンジニアは、自国だけではなくミシシッピ河、カリフォルニア湾、メコン河、バングラデシュなどの地域とも連携を深めてゆく。我々は、オランダを耐候性の高い国家としてゆく。これには巨額の資金が必要であり、現在国会では新しい法律(Delta Act)が審議されている。CE には「コミットメント」,「柔軟性」,「創造

性」が求められている。全てのコンサル企業は、政府、学会、NGO との連携による業際的アプローチを図る必要がある。

3. 所感

国際的課題に対する認識は各人とも共通しており、その解決のために CE が果たせる役割は大きいことを再確認できた。また、プロジェクトの計画や設計におけるサステナビリティの堅持については、社内の先進的な取り組み事例が聞かれ、興味深かった。

特集：FIDIC2009 ロンドン大会

Seminar2 Mobilising Engineering Resources セミナー 2 エンジニアリング資源の集結・動員

株式会社東京設計事務所 東京支社長
AJCE 技術研修委員会 FIDIC Policy 推進分科会分科会長 狩谷 薫

日 時：2009年9月14日(月) 14:00 ~ 15:30
場 所：Whittle、3階、クイン・エリザベス 会議センター
議 長：John Dionisio、AECOM、米国

1. セミナーの目的等

冒頭、議長である Dionisio 氏(米国 AECOM)により本セミナーの目的が説明された。地球規模の挑戦に対して持続可能な解決策を調達するために、エンジニアリング及び経営資源の供給と管理、世界/地域の協働が必要である。しかし、退職する有資格者数の未曾有の増大と有資格候補者の減少による人材確保難、新たに出現した市場におけるインフラへの投資の増加が先進国のそれを超えると考えられている状況において、これらへの対応が本セミナーのテーマである。

2. 対応するためのエンジニアリング資源の集結・動員

最初に、Gammie 氏(英国 Halcrow 社役員)から、必要なエンジニアのを見つけ方及び エンジニアに如何に持続可能性の概念を植え付けるかという観点から講演があった。

現代社会がエンジニアリングに価値を見出していないため、地球規模的な問題としてエンジニアが確保できない。工学とは、人類のために自然界を改良することであり、エンジニアなしには何もできないことから、持続可能性に関する意識を高め、責任あるエンジニアを大量に生み出す教育課程を開始する必要がある。政府及び業界は、学校に、エンジニアリングを職業とする持続可能性に関する指導者を置く必要がある。英国政府は、エンジニアや科学者などの社会に必須の技術に関する学位をめざして勉学する学生の授業料を免除しているが、その規模は十分ではない。

会場からは、子供が数学や科学で落ちこぼれる状況があり、小学校の教師の評価やエンジニアとして有望な生徒の囲い込みの必要性、科学の教師の再教育の必要性、役人・事業家を職に選ぶ学生が多いというジレンマがあるとの意見が出た。

3. 技能の不足した市場における資源の集結・動員

次に、Young 氏(南ア Parsons Brinckerhoff 社営業役員)から、技能の不足した市場での資源の確保に関して

講演があった。

プロジェクトのライフサイクルを通しての技能と資源の配置に関して、業務移転と技能移転の2手法を採用している。業務移転に関しては、世界レベルの技術センターを設け、プロジェクトオフィスとの情報インフラを整備し、複数のオフィスを結ぶWebベースのプロジェクト情報管理システム(ビデオ・テレビ会議を含む)を設け、技術資源の共有化を図っている。技能移転に関しては、リクルートと技能開発に重点をおいている。形式知(Explicit)と暗黙知(Tacit)に分けて、技能伝達を行っている。

4.我々は何に対応すれば良いのか?

続いて、Edwards氏(英国 MWHの欧州・中東・アフリカ・インド人材開発役員)から、何に対応して、また如何に人材不足に対応してゆくべきかという内容で講演があった。

2つの変化、社会、技術、経済、政治(STEP)の変化と気候変動に対応する必要がある。技術の高度化、顧客の要求の高水準化、ニーズの緊急化等に対応する必要がある。このために業界は、適応力を高め、機敏で賢く、協力的で、柔軟で、革新的で、発明的で、対応性に優れる必要があり、リーダーシップの助長、知識ベースの拡張、革新的な思考者を雇用し、時間・スペース・資源を与えるといったR&D、人を仕事に向かわせる活動、人に仕事を合わせるための活動、マネジメント意識の高揚、Webで使えるツール等のための投資が必要である。

5.エンジニアリング会社と現状の経済危機

最後に、Bueno氏(スペイン TYPESA Groupの社長)から、現状の経済危機に対して、エンジニアリング会社への政府の投資が重要である旨の講演があった。

現状の経済危機に対しては、経済を刺激し、雇用を創出するために再活性化計画が必要である。計画はプロジェクト持続可能性管理、財政上の施設、交通や建築における省エネ、支払いの滞り抑制、インフラへの投資、エネルギー効率の改善に重点が置かれるべきである。各国ではGDPの1.3～13.3%程度の景気対策投資が実施されている。CEサービスは費用最小でありながら、プロジェクトのライフサイクルコストや成功への影響度は極めて高いことから、エンジニアリングサービスへの投資が増大されるべきである。またCEは人が中心の産業であり、そこでの売り上げ増は大きな雇用を産み出す。このような観点から、CE産業への適正な投資配分を要求してゆく必要がある。

6.感想

我が国でも、人材の確保が難しくなっている状況を考えつつ、興味深く講演を聴いた。世界でも同じ状況にあり、国を含めて対応に取り組んでいることに感銘を受けた。エンジニアが居なければ地球環境問題への実質的な対応も難しいことから、我が国でも技術者の地位の向上、待遇の改善等を図るしくみ作りを、国に働きかけてゆくことが重要であると痛感した。



写真の右から、Gammie氏、Young氏、Edwards氏、Bueno氏

特集：FIDIC2009 ロンドン大会

Seminar3 Future Funding of Infrastructure セミナー3 将来のインフラ整備のための財源

株式会社建設技術研究所 経営企画部長
AJCE 技術研修委員会副委員長 **金井 恵一**

日 時：9月14日(月) 14時～15時30分

場 所：QE Conference Room Abbey

講演者：Keith Clarke, WS Atkins, UK (Moderator)
and 4 Speakers/Panelists

このセミナーでは、金融危機後の厳しい経済状況の下、今後の膨大なインフラ整備需要に対して資金調達をどのように行っていくか、という根源的な問題について、以下の4人の専門家が講演を行い、フロアからの質問に答えた。

1. Christopher Deacon 氏 (Thames Water, UK)

昨年来の金融危機インパクトは全世界的かつ深刻であり、インフラ関連業務とその資金調達を含む多くのセクターに大きな影響を及ぼしている。今後、政府・公的資金の景気刺激策の他、民間サイドでは長期運用を必要とする年金などの機関投資家からのエクイティ供給が増加し、その重要性はますます高まる。中長期的には、OECD レポート「Infrastructure to 2030」が予想するように、2030年までに電力供給関連は2倍以上、道路建設はほぼ2倍、水供給関連で50%増の投資が見込まれている。インフラ需要は決して無くならない。

2. Carol Hessler 氏 (Millennium Challenge Corporation, USA)

MCCは、米国政府が最貧国援助の目的で2004年に設立した会社で、その援助資金は全て無償供与である。スコアカード方式の審査で適格と認められれば、「Compact Assistance」として複数年に亘る貧困対策事業費が供与される。これまでに、ナミビア、モロッコ、ガーナなど十数ヶ国が対象となっている。援助残高は64億ドルでその55%がインフラ整備に振り向けられており、「Open, Fair and Competitive」を調達の基本方針として



いる。

MCCのインフラ関連の援助は16人のスタッフで900契約をマネージしており、全くの人手不足。コンサルタントによる技術的査定などの支援業務を、IDIQ契約で募集している。また、援助対象国の政府が援助資金によるインフラ整備業務を実施する際のPMや工事監理などを募集する場合もあり、コンサルタントの活躍する機会は多い。

3. Alasdair Macphail 氏 (Parsons Brinckerhoff, UK)

金融危機後の英国では2008年9月に2000億ポンドの景気刺激パッケージが発表され、うち30億ポンドがインフラ整備支出である。残念ながら、今のところGDP、失業率ともに芳しくない状況が続いており、直ちに効果が出ているとは言えない。問題点は、パッケージの全額が執行されていないこと、PPPなど組成に時間がかかる調達方法が多いこと、資金の流動性が不足していること、などである。これらの問題の解決のためには、速やかに着手可能なプロジェクトを揃えることと、財務省のインフラファイナンス部門がもっと能動的に動くことが必要である。

4 . Fola Adeola 氏(Guaranty Trust Bank, Nigeria)

低い生産性、過剰な労働負荷、劣悪な衛生環境など、アフリカの抱える諸問題の原因のひとつがインフラの不足であり、アフリカのインフラ整備需要は膨大である。今から2015年までの間に毎年200億ドルのインフラ投資を必要としている。この資金はどこから調達するのか。国内貯蓄は極めて低く、ODAとPPP、機関投資家の投資、シンジケートローンなど民間資金に期待する。

コンサルタントには、ロビーイング、PPPへの参画、そして「Knowledge Broker」として既存の技術の組合せか

ら新しい解決策を提供することなどを、期待したい。

未曾有の経済危機で各業界が苦境にある中で、インフラ整備関連については、その世界的な需要の大きさ、財政出動の効果、課題としての優先順位の高さなどから、長期資金の運用先として大きな期待感があることが強く感じられた。日本の公共投資が先細る状況下、コンサルタントにとっての海外市場開拓の重要性を一層強く認識させられたセミナーであった。

特集：FIDIC2009 ロンドン大会

Plenary Session Clients ' Perspectives
基調講演 クライアントの展望

株式会社建設技術研究所 担当部長
AJCE 国際活動委員会 QBS 分科会分科会長 河上英二

日 時：2009年9月15日(火) 9：00～10：30

場 所：Fleming QE Conference Centre

議 長：Geoff French Scott Wilson, UK

1. 当該会議の目的

ここでは、クライアントの立場からどのような地域や分野でチャレンジが最も活発になされているか、またなされるべきか。課題も含めて、ロンドンのオリンピックプロジェクトの事業紹介、インドの急成長への対応、ロンドンの地下鉄の新設(クロスレール)事業紹介、中国での課題と特に重慶市の取組みの紹介がなされた。特に環境、エネルギー問題への取組みが多かった。

2. 報告概要

ロンドン オリンピック関連事業紹介：John Armit : Olympic Delivery Authority, UK

- ・ 建設材料の輸送の50%は鉄道か川(運河)で
- ・ CO₂排出量の削減(全体で50%減など)
- ・ 材料の90%を再利用、またリサイクルで(解体などの)
- ・ 40%の飲料水の使用削減など

- ・ 廃棄物の再利用、集中的な廃棄物管理など
- また、関連事業で働く人たちの雇用や技術の育成についての紹介もなされた。

インドの急成長への対応：A. P. Mull : Tata Group, India

- ・ 途上国のインフラ需要は膨大で、インドは5ヵ年(2007-2012)で4920億ドルが必要
- ・ ただし、経済成長の鈍化で資金調達等に問題がでている
- ・ 一方で、都市化が著しく、インドの大部分の地域でエネルギー、都市輸送、水資源と廃棄物管理が必要
- ・ “Sustainable Engineering”の方向性として、再生可能エネルギー(水力、ソーラー、風力)の現状や投資額の見込み、5ヵ年計画の目標値などを説明
- ・ 原子力、汚水処理や地表水利用、廃土処理の戦略、新しい技術の導入など

ロンドン クロスレールプロジェクト紹介：

Terry Morgan : Crossrail, UK

- ・ ロンドン市内の混雑緩和、輸送時間短縮のために空港から東西方向に新しい鉄道を造る。密集する市街地の拡大と人口の分散、雇用の確保が見込ま

れる。

- ・ 期間は2007～2017、全体で118.5kmの欧州でも最大級のプロジェクト。
 - ・ トンネル部は21kmの2連。掘削土の運搬は鉄道で、また再利用など環境へ配慮。
 - ・ 若手トンネル技術者育成の場として大いに活用。
- 中国、重慶市の取り組み紹介：Dr Shirong Li：CIOB/COFTEC, China
- ・ 世界的な問題として人口、平均年齢、エネルギー消費、CO₂排出量、資源消費が増加
 - ・ 中国は世界の人口の1/5、エネルギー消費の17.7%、CO₂排出量の1/5を占め、引き続き経済成

長、都市化が進み更にエネルギー消費やCO₂排出が増加する。過去30年間で2.35億人が極貧層に、その1/5が中国。ただし中国では都市化によって貧困層からの開放が大。

- ・ “ Sustainable development ”のモデル都市として、重慶(中国のシカゴ、人口3,200万人、8.2km²、中国4大都市の1つ)を取り上げ、鉄道や川を利用した輸送、燃料の天然ガスへの転換などその取り組みと効果が報告された。また、大気の浄化も10年で目標達成(カリフォルニアは25年かかった)。健全なる都市化で貧困層も減少に。

特集：FIDIC2009 ロンドン大会

Seminar4 Regional and Country Hotspots セミナー4 地域、国における開発の焦点

賛助会員
元AJCE事務局長 藤江五郎

日 時：2009年9月15日(火) 11:00～12:30

場 所：Queen Elizabeth 会議場

1. Mark Harrison, (WS Atkins, 在中国)

1978年からの改革開放政策指導以来、驚異的な経済成長と相俟って、急速な都市化と工業化が進捗した。中国は2040年には世界最大の経済大国になる準備をしている。

しかし、現在中国の一人当たりの国民総生産は約3,000米ドルであり、相対的に貧困国に属する。

将来の優先課題は成長を継続させることであるが、その中には国内需要の促進、都市と地方の生活水準格差の是正、市場の連携、省エネ、節水、排気量の減少、耕作地の保護などが課題となっている。

渤海湾域、珠江流域、揚子江流域などの沿岸地域開発以上に西部地域発展政策が奨励されている。

2. A.P.Mull(Tata Group, インド)

気候変動がインド経済を打撃している。即ち、農産物

生産量の減少、食料と水の確保へのストレス、水力発電量の減少、沿岸漁業と生態系の荒廃、沿岸浸水による避難民の移動、伝染病と自然災害発生などの現象が起きている。都市部への住民移住は急速で無計画な都市膨張を生み、衛生、交通、住居、環境へのストレスを引き起こしている。資源保護、気候変動影響への緩和は責任ある開発によりその成果を発揮する。持続可能な発展は将来への影響に焦点を定める必要がある。

インド人口の63.6%が青年層であり、2億人の学部卒業生(全世界の16%を占める)を含む世界最大数の教育を受けた労働力を保持する。又5億人の技術力を持つ労働者がいる。この人材構成を活かし、適切なインフラ部門におけるこれら青年男女への能力開発教育は将来のインド開発の要望に応えるものである。

最近まで、運輸部門は空港、港湾、造船所、高速道路など近代化機会の最前線にあった。しかし世界経済の停滞はこれらのプロジェクト履行、資金調達に影響を与えた。鉄道、電力、都市インフラ整備への投資は比較的影響を受けていない。ビル設計、建設におけるグリーン

エネルギー、水資源の節約、漏水管理、リサイクル技術、エネルギー回収は新たに出現した部門として明記される。

適切なサービス、技術の移転は現地顧客がその必要を満たす操業、複製、開発の継続を確保し得るものでなければならない。また現地顧客への効果的な訓練指導は継続的に必要である。

コンサルタントは持続的発展確保の中で現地開発者の提案を指導する必要がある。

3 . Ken Dalton,(AECOM, 英国)

世界は一大転機を迎えた。人類の歴史上初めて、都市人口が農村人口を超えた。この驚くべき現象は経済、社会の拠点として発展する都市の重要性を注視することになる。

インフラ整備は鍵である。運輸、建設技術、建築様式と計画、水、エネルギー、環境、巨大プロジェクト管理等において専門家の視点から、専門家としてコンサルタントは都市の指導者が取組む前進への挑戦を支援する理想的な立場にある。

「将来への青写真」は一つではない。生活の質と持続可能な将来の成功を提供するという意味で、都市の発展は変化することを前提に骨格を提供する鍵となる要因は更に議論を要する。

4 .Francois Swart ,BIGEN ,南ア)

「南アフリカ政府の無能は国民の平等を消滅させたという唯一理由により証明される」

(BIGEN AFRICA 企業グループ会長、Dr.Iraj Abedian)

GINI Co-Efficient(注：社会における所得分配の不平等さを測る指標)のかつてない程増加する歪みがそれぞれ自身証明する。この指標の歪みが大多数のアフリカ諸国に当てはまる。

成功する経済をベースとする効率的な政府を持たない国家はかつて存在しなかったが、アフリカ全土にわたり

発布されている管理規定により現在の失政は更に悪化する。

人的資源の開発は最重要事項である。もしある労働力が雇用出来ない場合、雇用の開発は職種別専門家の育成により解決できるものではない。

人的資源の開発と持続可能な将来の確保をするために、効果的な教育と医療部門の開発に注力する必要がある。

これ等の事柄をコンサルティング・エンジニアはどこに依頼すればよいのか。「我々がより賢い業務に着手するならば」我々は生き残り、繁栄する。

筆者私見：

FIDIC大会二日目の午前に開催された本セミナーの各発表者は持ち時間15分で各自約30枚強のPower-Pointをスクリーンに映しながらの説明であった。発表内容要旨にあるとおり、各発表者の共通した課題は「CEの社会的影響力の強化とLeadershipの発揮」である。技術の専門家であると同時に持続ある社会の発展を実現するために、社会全体の発展を見据えてProjectsの政策立案の提案を含めて、初期段階から意見具申、参加をすることが「MUST」であると訴えている。

この踏み込んだ立場に立って、各発表者が置かれた国から発信をした。後半発表者によるPanel-Discussionを行い、下記討議した。

コンサルティング・エンジニア(CE)の発言力を高める手法の一つとして、CEの事業に関する政財界、業界へのロビー活動を行い、Project提案過程におけるCEの関与度を高める。

このため、FIDICは会員である会員協会(MA)と共に、国、地域単位でMAのロビー活動を支援する。当該国でのロビー支援と共に、FIDICは国際機関への発言力を高め、地域Project開発へのCEの積極的関与への道を確認する。

特集：FIDIC2009 ロンドン大会

Seminar5 Sector Hotspots セミナー5 分野別ホットスポット

株式会社建設技術研究所 企画本部国際部長
遠山正人

日 時：2009年9月15日 11:00 - 12:30
場 所：QEII Conference Centre 3階 Fleming
議 長：Lord Tunnicliffe、英国
参加人数：約80名

1. はじめに

Lord Tunnicliffe 氏の司会進行により、人口増加等に伴い拡大、あるいは新たなニーズが生まれているエネルギー、交通、水供給等の分野の市場の現状と課題に加え、特に急成長するインドのインフラ市場の将来と課題について、次の4名の専門家による発表が行われた。

2. 発表の概要

各専門家からの発表の概要は以下のとおりであった。

(1) Don Smith 氏(MWH 社、ヨーロッパ)

MWH 社の副会長である Don Smith 氏は、気候変動の影響を受けて世界的な水危機のさらなる拡大が懸念されるなか、気候変動の影響による洪水や渇水の頻発・被害の拡大は一部の国や地域に限定されたものでなく、世界の各国・各地域での対策が求められることを述べた。

ドバイで進められる水の再利用を前提とした新たな都市の整備や、度重なる渇水に対するオーストラリアの

国レベルの対応を例にあげながら、問題解決のためには、長期にわたるシナリオを想定した計画と、地域・国・大陸・世界といったそれぞれの地理的な範囲の中で構わずべき対策、分野を横断した統合的な解決策が求められると強調した。さらには、変化の状況を認識し、分野や地域をまたいだ協力関係を構築できるような政策のシフトが必要との認識も示した。

(2) C.D. Puri 氏(Scott Wilson 社、インド)

Scott Wilson 社の執行役員を務め南アジアを担当する C.D. Puri 氏は、人口増加と都市への集中などに合わせ、急激に拡大するインド国内のインフラ市場、その中でも拡大の著しい電力、道路、鉄道の分野について、その動向とインド国内で抱える課題について発表した。

彼の発表によると、インド国内のインフラ全体への投資額は、2007年でGDPの約6%であったものが、2009年には7.6%、2012年には9%にも達する見込みである。また、民間からの投資も拡大しており、電力、道路、鉄道の分野においても平均的に投資全体の3割程度を占めている。

電力分野では、2007年までの5年間の投資に対して、その後の5年間の投資は3倍程度の1500億USドルに拡大させる計画となっている。道路分野では、年平均で10%以上の伸びを続ける交通需要に対して、インド政



(左から) Alain Bentejac 氏、Paul Spence 氏、C.D. Puri 氏、Don Smith 氏、Lord Tunnicliffe 氏(議長)

府は年200億USドルずつの投資を行っており、州政府もPPPの活用も含めて投資を行っている。鉄道分野では、都市間の高速鉄道や貨物輸送鉄道、大都市内のLRTシステムや地下鉄システムの導入が鋭意進められている。

(3) Paul Spence 氏(EDF、英国)

英国 EDF 社の執行役員を務め、戦略・法務を担当する Paul Spence 氏は、イギリス国内の今後の電力供給事情に触れ、低炭素エネルギーへの転換、既存施設・設備の更新・改善、原子力発電の拡大などイギリスのエネルギー関連のインフラ市場が近年にない拡大の時期を迎えていることを報告した。

彼の発表によると、イギリス国内の発電・電力供給分野では、原子力発電やスマートグリッド技術の適用などを含めて、今後約10年間に200億ポンドの投資が行われる予想され、コンサルタント業界としても大きなビジネスチャンスとなっている。そのためには、電力供給業界など他の業界や政府と連携、原子力発電分野を中心とする次の世代の技術者の育成が必須であると強調した。

(4) Alain Bentejac 氏(Coteba Conseil、フランス)

フランス Coteba Conseil 社長の Alain Bentejac 氏は、フランス国内を中心にヨーロッパにおける建築と都市交通の分野の市場の動向について発表した。

建築分野では、持続可能な社会を構築すべくフラン

ス政府が2007年に打ち出した環境協定(Grenelle de l'Environnement)に基づき、例えば新築オフィスビルでは1m²あたりの電力消費を2010年までに50kw/h以下に抑えるといった野心的な目標を定めて、省エネルギー対策が進められており、戦後復興時にも似た状況にあるとのことであった。交通分野では、大都市では地下鉄などの大量輸送システムの導入、中小都市ではトラムの導入が進められているほか、都市間の高速鉄道の整備も積極的に進められている。また、ヨーロッパでは建築と交通の分野が融合したプロジェクトも見られるようである。

彼は、このように状況の中でコンサルタント業界は建築・建設といった他の業界との競争が求められており、コンサルタント業界のスキルアップ、人材育成、研究開発が必要であると強調した。

3. 感想等

4名の発表を通じて、気候変動の影響や人口の急増など地球規模の変化を通じて新たな課題やニーズが起り、今後もインフラ整備に対するニーズが減少することはないと感じられた。同時に、コンサルティング・エンジニアに対するニーズも変化してきており、長期的な視点に立った政策レベルへの提案や働きかけが求められ、新たなニーズへ対応するための技術開発、人材確保・育成が業界としての大きな課題としてクローズアップされた。

特集：FIDIC2009 ロンドン大会

Seminar6 Localised Mega Projects セミナー6 地域化した巨大プロジェクト

株式会社日水コン 河川事業部副事業部長
AJCE 国際活動委員会副委員長 藏重俊夫

日時：2009年9月14日 11:00-12:30

場所：QE コンファレンスセンター

報告者：Peter Wickens(Chair, MottMacDonald, UK),
Jacqueline Rast(CH2M HILL, UK),
Richard Smith(WS Atkins, UAE), Peter Head
(Arup, China)

参加人数：50人程度

1. プログラムの概要

同セッションは、3つの巨大プロジェクトに焦点を当て、持続性を確保する取り組みを概観したものである。紹介される3つのプロジェクトのうち、ひとつはロンドンオリンピック会場の開発を中心とした事例であり、残り2つは途上国での事例である。持続性管理に関しては、我国ではまだまだ未成熟なマーケットといえるが、今後

のコンサルタント業務において徐々に対応が求められる分野といえる。

2. CH2M HILL 社の報告(Jacqueline Rast 氏)「オリンピック関連プロジェクトでのエネルギー効率化」

CH2M HILL 社は、「グローバル・コンパクト」への参加企業であり、まず同社の基本戦略が紹介された。すなわち、国連指標に加え、独自の持続性指標を有し、企業グループとして企業持続性管理会社を保持している。そして、社の持続性管理のプロセス・ツール等は、世界中のベストプラクティスをもとに改訂される。また、“全ての人に水”や“国境のない技術者”など、各種国際機関による持続性確保の取り組みに重要な役割を果たしている。

次いで、オリンピック関連プロジェクトでのエネルギー効率化のKPIとして、CO₂削減、再生可能エネルギー活用と使用量削減、中庸・質素な宿舍 / エネルギーに関するグリーン戦略が示された。

最後に、UAEでの持続性管理、パナマ運河の拡張事業、米国水害対策事例の紹介がなされた。

3. WS Atkins 社の報告(Richard Smith 氏)「カーボン・クリティカル設計」

Atkins 社によるカーボン・クリティカル設計とは、建築物の価値や居住者の生活の質を向上させつつ、気候変

動への影響を低減し、さらに、グリーンガス排出を最小化するものである。すなわち、エネルギー・水の利用に関し、建物内での循環の促進・建築物の耐久性の向上・循環/耐久化を通じた炭素固定・再利用推進を実現する設計手法である。そして、エネルギー・水利用が通常の場合より35%程度節約できたバーレーンでの風力発電タワーを兼ねた高層ビルや、50%以上のエネルギー削減も可能となる最新の高層ビルの事例が紹介された。

4. Arup 社の報告(Peter Head 氏)「中国のグリーンシティ」

コンサルティングエンジニアは、“持続可能な生活に向かうことができるか？”、“低中高の各収入レベルの国々でどんな政策や投資が必要か？”、“生態系時代への変革期を迎え、エンジニアの役割は何か？”といった課題に直面しているが、今後の課題解決へのヒントとして、中国で実際に実施したプロジェクトが紹介された。すなわち、CO₂の海洋や地中固定を内部化した石炭利用システム、自動車や廃棄物処理で放出されるメタンガスの肥料化・発電所で固定したCO₂の畑地利用などを核とした小規模炭素循環システム、農村と都市の分離型から協調型の資源利用社会への転換、将来の理想的エネルギー社会などの概念が示された。

特集：FIDIC2009 ロンドン大会

Seminar7 A place at the political table and a Voice for the industry セミナー7 産業のための発言

株式会社建設技術研究所 担当部長
AJCE 国際活動委員会 QBS 分科会分科会長 河上英二

日 時：2009年9月15日(火) 14:00 ~ 15:30

場 所：Whittle, 3rd Fl. QE Conference Centre

議 長：Nelson ogunshakin ACE, UK

1. 当該会議の目的

これからは、コンサルタント産業が政策的な会議や意

思決定の場所での立場を強化すること、グローバルな産業として金融、保険や法律分野に対して発言できるようになることが必要であると考えられる。ここでは、それぞれの立場から、コンサルタントに必要なことやその考え方が紹介された。

2. 報告概要

Nick Raynsford : Construction Industry Council, UK

- ・ビジネスに関わるFIDICやその会員は多くの責任を負っている。そのひとつは会員の利益に関する効果的な主張をすることである。
- ・公共的な方針に関与することが重要である。そのような方針が形成される会議や場はいろいろある。

Andrew Hawkins : ComRes, UK

- ・調査を通じた“ Political Engagement(政策参加)” について説明がなされた
- ・公共政策に影響を及ぼす研究(開発テーマ、ベンチマークなど)
- ・調査の場面は計画時、実施時、評価時にある
- ・計画時 : 目標は達成可能か? 誰が決定者か? ステークホルダーは誰? など
- ・実施時 : どのようにサポートするか? 何ができて何ができていないか? など
- ・評価時 : 成功をどう判断するか? 政治的成果は? など

Tony Barry, Aurecon, Australia

- ・CEとしては何をしたいのか? 何を提供できるのか? 誰のために?といった視点で説明がなされた。
- ・何をしたいか? : 影響を与える、連携する、理解するなど
- ・何を提供できるか? : 持続可能性へ導く知識、広い専門性、困難な挑戦への解決法など
- ・また、どのようにして? では、立場や問題の把握、影響を及ぼす対象、リスクなどを把握することが必要で、コミュニケーションが重要であるとのこと。

Dave Raymond: ACEC, USA

- ・ここでは、アドボカシー(ロビイング活動)について実践的な説明がなされた。
- ・例えば、ゴールの設定、目標の定義や確認、アクションプラン、ロビイストの採用など
- ・そのためには、目標を明確にすることや、誰を採用すべきか? などのアクションプランを作成すること
- ・ツールは何か? ポジションペーパー、短小的を得たプレゼン、メディアなど
- ・他に、これを実施する人やルール(相手より少人数、長居をしない、質問は3つまで)など

特集 : FIDIC2009 ロンドン大会

Seminar8 Promoting Skills and Raising Standards セミナー 8 スキルそして技術水準の向上に向けて

日本工営株式会社 民活プロジェクト部部長
AJCE 技術研修委員会副委員長 **林 幸伸**

日 時 : 9月15日 14 : 00 ~ 15 : 30

場 所 : Fleming

議 長 : Alex Eyquem (AECOM Canada)

参加人数 : 約300名?

1. プログラムの概要

コンサルタント会社AECOM社のAlex Eyquem氏をモデレータとして、大会テーマである「持続性のある解決策」に不可欠となる、コンサルタントのスキルや技術水

準の向上について、3つのコンサルタント会社と大学教授がプレゼンテーションを行った。

2. セミナーの内容

1) Florencia Roitstain 氏(Halcrow, アルゼンチン)

中南米の開発途上国では、気候変動や再生可能エネルギーの問題よりも、「生活の質の向上(Quality of Life)」が喫緊の課題である。リマ(ペルー)、サンパウロ(ブラジル)、ブエノスアイレス(アルゼンチン)、サンジ

エゴ(チリ)、ラパス(ボリビア)における、環境、衛生、貧富拡大、水不足などの問題は大変深刻である。CEはこれらの課題をビジネスの機会とするためにも新たなスキルセットを身につける必要がある。H社ではこれらの課題に対応するために、Sustainability・E-Learning Toolを開発した。これは、自己学習を基本としたWEBベースの社内用教育訓練システムであり、情報交換の場としても活用でき、持続性ある開発のためのマニュアルも内蔵しており、社員研修に効果を発揮している。

2) Peter Guthrie 教授(ケンブリッジ大学、英国)

今後の英国にとって、次世代の起業家、科学者、エンジニアは最も重要な人々であり、これらの人々を支援し養成することの重要性が認識されている。「持続性ある開発」は今後エンジニアの新たな責務となるであろう。また、政策の決定に今後エンジニアは益々深くかかわってゆくことになる。グローバル化した世界の中で、エンジニアは国際的感覚が求められ、多様化した経済社会や文化のなかで解決策を提示してゆかねばならない。今後、エンジニアの教育の拡充してゆく必要があり、大学もその一翼を担う責任がある。

3) Siv Axelsson 女氏(WSP社、スウェーデン)

CE業界の主要な課題としては、若い世代(Generation

Y)の獲得、産業イメージの向上、効率化の為の専門領域統合、サステナビリティの原則化、知的産業界のリーダーの特定、業界の人的構成の変化などが挙げられる。今後のコンサルタント企業や教育者に求められることは、多種多様な人材を登用すること、あらゆるコミュニケーションを助長すること、革新性と創造性を育むこと、新技術を活用すること、保守的に陥らないこと、現場で学ぶこと、がアドバイスされる。

4) Graham Nicholson 氏(Tony Gee & Partners、英国)

革新性は経済的発展と長期の繁栄を果たすために最も重要な因子である。研究開発はコンピュータや医学の分野において盛んであるが、コンサルタント産業においても活性化させる必要がある。多様なスキルセット(テクニカル・スキル、ビジネス・スキル、ヒューマン・スキル)を持ち合わせる事が重要である。

3. 所感

社員の能力向上のために、企業は継続的な投資を行うべきことが共通のメッセージであった。Halcrow社の社内教育システムは興味深いものであった。また、業務に革新性を取り入れることが、コンサルタント業界の活性化のために重要である、という視点も一致したものであった。

特集：FIDIC2009 ロンドン大会

Seminar9 A Coordinated, Unified Approach
セミナー 9 同等で、統一されたアプローチ

賛助会員
AJCE 技術研修委員会名誉副委員長 竹村陽一

1. セミナーの概要

日 時：2009年9月15日 14:00 ~ 15:30

場 所：Abbey, 4th Fl. QEII Conference Centre

議 長：Johanne Desrochers, ACEC-Quebec

報告者：Simon Goldie, ACE, UK

講演者：Patrick Batumbya, MBW Consultants, Uganda;
Neil Sandberg, Sandberg, UK; Graham Pirie,

CESA-South Africa; Akihiro Hirofumi, Oriental Consultants, Japan

本セミナーは、タイトルから内容をイメージしにくいところがあるが、本大会の第3の課題である、「A More Agile, Responsive Industry」の下にあり、コンサルティングエンジニア(CE)が世界の課題に挑戦するに当たっ



て、何が障壁であり、何が欠けているか、そしてFIDICの役割は、という問題意識が流れている。

議長はカナダ・ケベック州においてCE産業の育成に永年貢献してきたDesrochers女史で、他分野の専門家との連携や協働をより一層活発なものとするためにとるべきアプローチを議論したいと本セミナーの方向を示した。

2. 講演 アフリカからの発言：Patrick Batumbya (ウガンダ)

予稿集では「CEは専門家であるよりは、ビジネスマンであれ、人類は死滅の脅威に曝されている」と激しく語ったが、講演ではCEはロビー活動が必要である、政治家はリップサービスだけ、という言葉で始めた。

続いて人口爆発とそれによる供給量の低下、環境悪化という悪循環に陥っているアフリカの現状を、いろいろの事例を挙げながら熱っぽく語った。

結論としては、政府の役割が重要であるので、CEは政府を支援して、高コストを改善し、環境と開発のバランスを取りながら、供給量を拡大していくべきであると述べた。

3. 講演 High Profile Industry へ向けて：Neil Sandberg(英国)

コントラクターへ勤めた後、CEとなったNeilは社会に貢献しているCEのことを政治家が理解するようなアプローチをとるべきであると述べ、顧客側の要求は各地域、各国によって様々であるが、CEとしての大きな目標を達成するために、団結が必要であるとした。

英国におけるCEの役割拡大運動の事例をいくつか挙げて説明したあとで、英国政府が最近決定したといわれるChief Construction Advisorを歓迎した。ただし、その詳細については述べなかった。

最後の部分ではCEのコミュニケーション能力、説明能力の問題にふれて、その重要性を指摘した。Clients' needs、Raise profileそしてBrandこの3点が彼の結論である。

4. 講演 南アフリカの立場：Graham Pirie(南アフリカ)

ヨハネスブルグ市で長く都市計画、交通などの土木建築行政に携わり、南アのコンサルタント協会(CESA)のCEOも務めたGrahamは、「Knowledge is power.」、「Sharing knowledge is vital.」の言葉をもってはじめた。

続いて会員企業450社、個人会員19,000人、年間売上25億ドル、協会常勤職員12名のCESAを紹介したあと、戦略的方策として次の項目を挙げた。

意思決定者への主張表明、SDの概念を広報、普及、特に顧客団体に向けて、地方政府など、CEの訓練、建設業における汚職体質の排除、建設産業憲章の制定、建設調達政策の最終化(南アはQBSではない。)

5. 講演 アジアからの発言：廣谷彰彦会長(AJCE、日本)

廣谷会長はイランから太平洋まで、20の協会が参加するFIDICアジア太平洋地域会員協会連合(ASPAC)の話から始める。この地域は現在の世界の経済を引っ張る中国、インド、ASEAN5カ国などがメンバーである。経済の拡大に伴って資源やインフラの需要が急増している。人びとの生活の質の向上がCEの役割であり、今後、協働も強め、ASPACの発展を望む。そのために、会議、研修、事務局、Young Professionals Forum(YPF)などを通して相互の連携を図っていくと述べた。

また、capacity buildingと品質・技術による選定(QBS)はCEの基本であるので、その追求をリーダーシップを発揮し、内部の連携をとりつつCEの知名度の向上に向かって進みたいと締めくくった。

6. Q&A セッション

参加者からの質問・コメントは7人あった。それらの話題は次のようなものである。

- ・ YP活動はグループで研修することが、重要である。分野の異なる者が経験を語り合うことでよい勉強になる。
- ・ アフリカへの質問；人口爆発の影響と汚染問題をかかえるアフリカの将来はどう進むか。中国やインドとの関係はどうか？
- ・ FIDICの発刊文書の活用方法。ライフサイクルコスト(LCC)の重視
- ・ QBSの推進にあたって各国の状況
- ・ クライアントの学習

7. 議長の総括ほかについて

Desrochers 議長が「一つの声」で政治家へのアプローチを説いたことは、従来のCEコミュニティの文化では稀なことであったので、本大会における新しい動きとして注目に値すると思う。



また、Simonの報告では「Be proactive.」の言葉が印象に残った。

世界が直面している諸課題は大きく、多くかつ複雑である。政治も絡んでいる。いかにCEが頑張ったとしても、解決には遠いだろう。しかし、持続可能な技術的解決策を提示し、その実現につなげていくことが、CEの究極の責任であることは間違いないと思う。その高い目標に向けてのロンドン大会であった。

特集：FIDIC2009 ロンドン大会

Industry Perspective Session 産業の将来見通し

株式会社東京設計事務所 代表取締役副社長
AJCE 副会長 **宮本正史**

日 時：2009年9月16日 9：00～10：30

場 所：QE II

議 長：Gregs Thomopoulos, Stanly Consultants, USA

発表者：Flemming Pederson, Ramboll, Denmark John
Dionisio, AECOM, USA

Paul J. Zofnass, EFCG, USA

1. 議事進行

議事進行はStanly Consultants社のGregs Thomopoulos氏によって行われた。3日間に亘る会議の最後として、3人の演者により今後この産業が何をなすべきかを発表して頂く。我々の考えを実現するには政治家を説得せね

ばならず、また、今年12月のコペンハーゲンで開催されるCOP15が開催される。このような状況で我々は何をすべきかを話して頂く。3名のうち最初の2名はCE会社の代表であり、最後の1名は財務顧問会社の方である。このような冒頭の挨拶があり、3名の発表者の会社及び本人の簡単な紹介が行われた。

2. 世界的な挑戦に応じるリーダーとなれるか

Flemming Pederson氏は9,000人を擁するデンマークのRamboll社のCEOを1992年から務めており、2004～08までFIDICの理事であった。Pederson氏は世界的な挑戦に対し、我々CEはリーダーとなれるのか、智的サー

ビスの提供者となれるのか、との問いかけから講演を始めた。まず最初に世界的な挑戦として、

グローバリゼーション

人口増加

環境問題

都市化

世界的気候変動

を挙げ、これらはむしろ憂つな傾向であると指摘した。しかし、これらは我々の職業に対し巨大な潜在的な需要を意味している。我々は解決策を提供すべく、多くの分野を統合した能力を開発しなければならない。“知識はグローバルに、仕事はローカルに”をモットーとすべきである。これからのコンサルタントはCEではなく総合的な社会のコンサルタントとなるべきであり、そのためには透明性、公正性なども重要な要素である。また、こうすることによって、若い才能を引き付けることができる。冒頭の問いに対する答えは、“イエス”であるとして Pederson 氏は講演を締めくくった。

3 .John Dionisio 氏の講演

John Dionisio 氏は AECOM 社の社長である。同社は従業員 44,000 人、売り上げ高 61 億 USドルの世界的企業である。業務は幅広い分野をカバーしており、また世界各地で活躍している。売り上げ高の 50 % 以上はアメリカ以外の国からのものである。

現在世界は様々な挑戦を受けている。都市化に伴い様々なインフラが必要となり、気候変動にも対応が必要である。昨年からの世界的な不況により政府の公共投資は減少しているが、官民連携(PPP)などの新たな方法によるインフラ整備が行われるようになった。建設投資は長期的には増加すると考えられ、特に以下の分野で伸びが著しいと予測される。すなわち、交通(今後10年間で400%増加)、水(同、320億USドルの投資)、エネルギー(同、4兆USドル)、環境(同、廃棄物

9,730kg/人・年)である。今後我々の産業の発展には才能の獲得が重要(war for talent)である。

4 .エンジニアリング / コンサルティング産業の概観

Paul Zofnass 氏は米国 EFCG 社 (Environmental Financial Consulting Group) の社長である。同社は投資および財務顧問を業務としており、CE 会社が顧客である。財務や企業戦略のコンサルティングが主要な業務であり、これには企業合併や買収のコンサルティングも含まれる。

Zofnass 氏は米国の CE 企業の概観を、規模や財務内容の分析結果を示す多くの図表を使用して説明した。それによると、企業の規模は増大しており、大規模な会社の売り上げ高の割合も増加傾向にある。また、会社の所有形態も変化してきている。依然として従来から多数を占めている役職員が所有する形態が多いが、外部が所有する会社が増加している。米国企業の海外での売り上げが増加している。利益率も向上してきている。持続的な経営慣行に多くの企業が取り組んでおり、よりリスキーな業務にも領域を広げている。CE 企業の株価指標は全産業や建設業と比べかなり高い(望ましい傾向)、合併や買収も増加傾向である。主要な企業の変化をたどり、過去に存在した会社が合併により、また単に破綻して企業数が減少した。このような全体的な傾向にあるが、肝心なことは規模ではなく効率である、と結論づけ Zofnass 氏は講演を締めくくった。

その後、会場との活発な質疑応答があり、全体会議は終了した。3 氏の講演は全体的にコンサルティングエンジニア産業を肯定的に評価するものであった。特に、最後の Zofnass 氏の講演は CE 企業以外からの評価であり、非常に興味深いものであった。米国で CE 企業がこのような高い評価を得られるのか、その秘密を是非とも解き明かす必要がある。

特集：FIDIC2009 ロンドン大会

Actions for FIDIC FIDIC がとるべき行動

日本工営株式会社 コンサルタント海外事業本部エネルギー開発部部長
金井晴彦

日 時：2009年9月16日

場 所：Whittle, The Queen Elizabeth II Conference Center

議 長：Richard Kell, Cardno, Australia

参加者：Ken Dalton, Tony Pryor, Bayo Adeola, Adam Thornton

内 容：4名の発表者が議題に係わるプレゼンテーションを行い、セッション参加者を4つのグループに分け、各テーマについてのワークショップを開催した。

1 .Ken Dalton(AECOM, UK)の発表：Sustainable Cities

世界の都市人口は急増しており、百万人を超えるメガ・シティは336都市存在し、その都市に必要なメガ・プロジェクトもほぼ同数ある。気候変動、環境問題、人口の爆発的増加等、メガ・シティが抱える問題は深刻であるが、同時にその持続性を維持していくためには、コンサルティング業界が戦略と技術を提供し、包括的な解決を図るべくリーダーシップを発揮していくことが必要である。

2 .Tony Pryor(Halcrow, UK): People and Resources

若い世代の土木離れは、世界的な潮流でもある。FIDICが中心となり、学生を惹きつけるフレームワークを

創出し、大学での土木教育を充実させるとともに、技術を普及・継承していく仕組みを促進していくことが重要な課題となっている。FIDICによるコース修了証明書の発行、12月に開催予定のCOP15における政治的なロビー活動を展開していくべきである。

3 .Bayo Adeola(CPMS, Nigeria)の発表：Developing Countries

アフリカへの開発援助はアジアと同規模であったにも拘わらず、近年の経済発展において大きな差異を生じている。アフリカのインフラ建設は遅れており、経済成長のためにさらなる投資が必要とされる。一方で、途上国においてはコンサルティング・エンジニアが量と質において不足しており、FIDICによる先進国と途上国間のパートナーシップの構築や途上国エンジニアの教育訓練が課題として上げられる。

4 .Adam Thornton(Dunning, New Zealand)の発表：FIDIC Tools

地球温暖化等のグローバルな問題解決に向けて、持続的な開発に向けての基準策定、建設における二酸化炭素排出量の測定・算出システムの構築、二酸化炭素排出削減における最適実施事例のデータベース化と制度化等の対策をFIDIC主導の下で実施していくべきである。また、技術者倫理基準の普及も課題のひとつである。

特集：FIDIC2009 ロンドン大会

Actions for Member Associations 会員協会がとるべき行動

日本工営株式会社 代表取締役社長
AJCE 副会長 廣瀬典昭

日 時：9月16日 11：00～12：30

場 所：Fleming

議 長：Davit Raymond (ACEC、米国)

参加人数：約200名

1. プログラムの概要

米国のFIDIC 国別協会の会長を務める Davit Raymond 氏をモデレータとして、コンサルティングエンジニア(CE)が社会のリーダーとして活躍するために会員協会(MA)は何をすべきかをテーマに、これまでFIDIC の活動に深く関わってきた4名(メキシコ、豪州、英国、インド)が、其々の立場から語った。

2. セミナーの内容

1) Jorge Diaz Padilla(Systec 社 CEO、元 FIDIC 会長、メキシコ)

CE が直面している第一の課題は、発注者からの認知度が低く、また CE 企業の技術力が均一でないことである。MA 加盟のハードルを上げることにより、企業の水準を上げることが出来よう。また、MA 加盟企業が発注者にとって「信頼足るアドバイザー(trusted advisor)」である証しにもなる。また、技術サービスが価格競争に晒されコモディティー化していることも課題である。これに対しては、品質・技術による選定(QBS)が CE 選定において最も望ましい方法であり、品質・技術と価格による選定(QCBS)の場合はコスト要素を10%～20%に抑えることを訴え続ける必要がある。プロジェクト選定においてサステナビリティが蔑ろにされている現実もある。FIDIC が策定した「プロジェクトのサステナビリティ管理ガイドライン」をより強力にプロモートすべきである。

2) Megan Motto(豪州協会 CEO、豪州)

MA は、CE を取り巻く課題をビジネスの機会に変換

する役割を果たさねばならない。目指すべき方向性は、信頼足るアドバイザーとしての CE の早期雇用、QBS、公平なリスク配分、契約書の標準化、技術能力の持続的向上、政策や制度へのより良い対応、パートナーシップやコラボレーションを通じた技術革新、などが挙げられる。豪州協会は、これら課題に対応するために、政府と業界との橋渡し役としてロビー活動も積極的に行い、目に見える成果も上げているところである。

3) Les Buck(Halcrow、英国)

気候変動や人口増加への対応のために、社会基盤整備の需要はこれからも増大するであろう。我々 CE はこれら課題の解決を果たすために最前線に立つことが求められている。問題は、業界内の過大な競争によって、時間の浪費、収益率の低下、投資活動の減退、研究開発の衰退、社員研修の機会低下が起きていることであり、結果としてこれは発注者に対する業務パフォーマンスの低下をもたらす。MA には、CE が発注者との公平な立場を維持できるよう活動を続けることを期待したい。我々の時間とエネルギーは、お互いを出し抜くために使うのではなく、地球的課題を克服するために使いたいものである。

4) Kiran Kapila 氏(ICT 社会長、インド協会会長、インド)

バランスのとれた世界的経済発展を実現するために、CE は、技術、環境、社会、経済、政策など複合的な側面に配慮した解決策を提示する、重大な任務を負っていると考えられる。MA は、CE が本来の機能をより良く発揮できるよう支援しなければならない。インド協会では、インドならびに周辺地域のための FIDIC 研修センターの設立、若手や女性のエンジニアの育成、産官学交流促進の先導者、政府機関に対する CE 代表者としてのプレゼンス強化を、今後の課題として活動を行っている。

3. 所感

今後の国際社会において、CEの果たすべき役割は非常に大きいとの認識は各氏とも共通であった。その一方で、過剰競争がもたらす負の影響については、看過で

きないところまで来ており、各国ともこれを是正する面でFIDIC会員協会に大きな期待が寄せられていることが実感された。

特集：FIDIC2009 ロンドン大会

Actions for Member Organizations コンサルタント業界がとるべき行動

株式会社オリエンタルコンサルタンツ GC事業本部 副本部長
藤岡和久

日時：2008年9月16日 11:00 ~ 12:30

場所：Queen Elizabeth II Conference Center Abby Room

議長：Flemming Pederson, Ramboll, Denmark

話題提供者及びワークショップファシリテーター：

Hugh Blackwood, Scott Wilson, UK

Tony Barry, Aurecon, UK

Anne Potter, ACEI, Ireland

Christiaan Poortman, Transparency International, Germany

Assistant Reporter: Karol McCuster, Scott Wilson, UK

1. セミナーの概要

本セミナーでは、大手コンサルティング会社、コンサルタント協会等の代表者により、コンサルタントがそれぞれの具体的な活動の中で目指しているもの、課題、目的意識等を披露することにより、それらがコンサルタント産業の発展のためにどのように寄与するかの意見交換を行った。

何れの発表も、世界が供して向き合わねばならない課題への、持続可能な対応という観点からの話題提供となった。

2. 各プレゼンターの発表のポイント

Hugh Blackwood, Scott Wilson, UK

- 世界的課題に対する持続可能なソリューションの提



供、産業としての見通しと行動の提案 -

世界的コンサルティング企業である、Scott Wilson社の取組方針

Tony Barry, Aurecon, UK

- 世界的課題に対する取組方針 -

Aurecon社の取組方針

Anne Potter, ACEI, Ireland

- 世界的課題の対する持続可能なソリューションにおいて、エンジニアリングコンサルタントが果たせる役割とリーダーシップ -

その根拠とするところと戦略的焦点

Christiaan Poortman, Transparency International, Germany

- エンジニアリングと建設産業における透明性の確保の重要性 -

透明性の確保が産業全体の重要な役割

特集：FIDIC2009 ロンドン大会

Social Program 懇親行事

株式会社日水コン 東部下水道事業部 技術第三課長
AJCE 国際活動委員会 ASPAC 分科会 **赤坂和俊**

1 .Welcpme Reception 歓迎会

日 時：2009年9月13日 19：30～21：30

場 所：Royal Courts of Justice(王立裁判所)

Welcome Reception 会場はRoyal Courts of Justice(王立裁判所)、13世紀に建設されたゴシック構造の建物である(写真1、写真2)。会場には4人の演奏者によるクラシック音楽が流れ、非常に格式高い雰囲気であった。そ

んな中、イギリスコンサルタント協会(Association for Consultancy and Engineering : ACE)の Nelson 氏から歓迎の挨拶があり、引き続き、ロンドン市長からロンドンのすばらしさについて紹介があった。最後に、John Boyd 会長の挨拶を機に歓迎会が活気づいた。再び演奏が開始し、会場はさらに賑わいを見せた。

写真7はAJCE 諸先輩方のくつろぐお姿である。



写真1 王立裁判所外観



写真2 王立裁判所内観

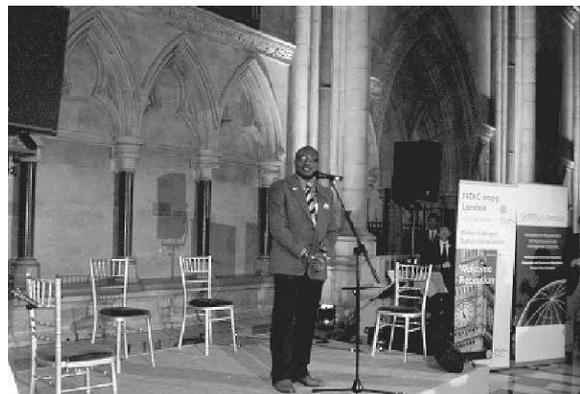


写真3

司会：Nelson Ogunshakin, ACE Chief Executive



写真4 ロンドン市長



写真5 John Boyd 会長



写真6 演奏風景



写真7 会場風景



写真8 AJCE 諸先輩

2 .Opening Ceremony 開会式

日 時：2009年9月14日 9：00～10：30

場 所：Fleming, Queen Elizabeth II Conference Centre

2009年FIDIC大会の開会式は、ビッグ・ベン、ウエストミンスター寺院、およびロンドン大観覧車を望む立地にあるQueen Elizabeth II Conference Centreで開催された。式典は、(ACE)のChief ExecutiveであるNelson氏の開会の言葉で始まり、本大会のConference ChairであるGeoff French氏、FIDIC会長のJohn Boyd氏、ロ

ンドン議会メンバーのDoocey氏から挨拶があった。そして、演芸プログラムに入った。最初の演芸プログラムはシェークスピア風の喜劇であった。この約40分間の喜劇終了後、挨拶の最後は、アン王女から本大会に対する労いの言葉を頂いた。

最後は、アカペラによるHappy Dayで開会式が終了した。

開会式の内容は次のとおりである。

9：00～	式次第説明等	Nelson 氏	写真9
9：05～	ACE 挨拶	Geoff French 氏（会議長）	-
9：10～	FIDIC 挨拶	John Boyd 会長	写真10
9：20～	Member of the London Assembly 挨拶	Dee Doocey 氏	写真11
9：30～	演劇		写真12
10：15～	HRH Princess 挨拶	Ann 王女	写真13
10：30～	アカペラ		写真14
	閉式		



写真9 Nelson氏(ACE)



写真10 John Boyd氏(FIDIC President)



写真11 Dee Doocey氏



写真12 ANN王女



写真13 喜劇



写真14 アカベラ



会場風景

3 .GALA Dinner **ガラディナー**

日 時：2009年9月16日 19：30～23：00

場 所：Boardroom, Grosvenor House

大会のフィナーレ GALA Dinner。会場は大会のメインホテルである Grosvenor House で開催された。まず、ホスト国の Nelson 氏(ACE)より挨拶があった。イギリスが初めての私にとって、イギリスの食は噂では相当ひどい、期待するな、と事前に色々な人にすり込まれていた。また、この日までに色々な場所で口にすることは、噂通り、とまではいかないが、私の口に合うものではなかった。そもそも油で揚げたものを好んで食べない私にとって、フィッシュ&チップス主流の食はかなり厳しいものがあった。このように、事前の噂、イギリスに入ってから GALA でも、大きな期待はしていなかった。その大きな割引もあってか、GALA Dinner は美味しく頂けた。特にデザートは素晴らしいと思った。あまりケーキを食べない私でも非常に美味しい食であった。Dinner も概ね終了したリラックスムードの中、会場センターでブラスバンドの演奏が始まった。イギリスならではの行進し

ながらの演奏にほろ酔い加減の会場もさらにヒートアップ?ひとしきり演奏に耳を傾けた後、ブラスバンドの演奏が終了した。ここで、John Boyd 氏から挨拶が始まった。この段階で氏は前 FIDIC 会長としての挨拶となる。そして、新たに FIDIC 会長に就任した Gregs Thomopoulos 氏より、就任の挨拶も含め挨拶があり、いよいよ GALA Dinner も終盤に入った。今回、廣谷会長は3年間の ASPAC 議長の任期を無事終え、新たに FIDIC 理事に、そして、内村理事が ASPAC 理事に、それぞれ就任されました(写真17は、両ご夫妻の写真です)。これにより、日本のコンサルティングエンジニアのプレゼンスがさらに向上していくことでしょう。廣谷会長、内村理事、おめでとう御座います。さて、いよいよ恒例のダンスタイム(写真19～21)が始まり、ここから1時間以上もこの時間は継続した。ダンスに参加する面々は、Young Professionals よりも・・・という状況です。すばらしい。そして、最後に ASPAC 事務局3人での写真撮影(写真22)。今年は ASPAC 理事選や事務局としての最終年であったことから、やっとプレッシャーから開放されての1枚です。

まだまだ、夜は続きます。皆様、お疲れ様でした。



写真15 会場風景



写真16 ブラスバンドの演奏シーン



写真 17 廣谷会長夫妻と内村副会長夫妻



写真 18 テーブルでくつろぐ



写真 19 ダンスシーン



写真 20 ダンスシーン



写真 21 ダンスシーン (藤江夫妻)

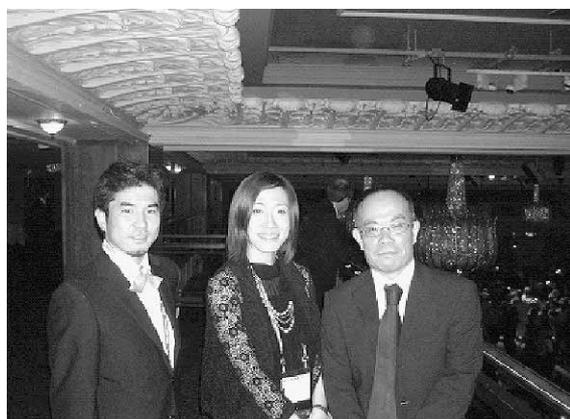


写真 22 宴の後に、ASPAC事務局3人でパシャ

特集：FIDIC2009 ロンドン大会

Presidents Meeting 会長会議

株式会社オリエンタルコンサルタンツ 代表取締役社長
AJCE 会長 廣谷 彰彦

1. 会議概要

会長会議は、FIDIC 会員協会及び地域組織の会長・議長が出席し、大会前日に開催された。その内容は、FIDIC の年次活動報告と FIDIC 組織の運営や次年度以降の活動予定に関する協議、FIDIC 地域組織及び関連組織による活動報告、及び自由討議が中心であった。

2. FIDIC 活動報告、今後の活動予定及び組織運営について

会議ではコンサルタント業界及び FIDIC が直面する重要課題を中心に事務局から報告がなされた。世界同時不況の影響は今なお残るが、業界として成長を続けるためには、人材育成や契約方式の改善、受発注者の規範に沿った行動が重要であるとの認識が示された。また FIDIC の重要課題として、活動の効率性向上、人的・知的リソースの活用、会員協会との連携の重要性等が指摘された。これらを踏まえ、業界を取り巻く環境の変化や会員協会のニーズに即した教育ツールの提供やガイドブックの発行・更新を進めることが報告された。

続いてボイド会長より、FIDIC の今後の活動について提議があった。来る 2013 年の創立 100 周年に向けて、FIDIC は、活動の継続性や効率性のために、組織のあり方を見直すタイミングに来ている。特に事務局については、人員構成やその立地について近々に協議する必要があるとの認識が示された。地域の活動について、FIDIC アジア太平洋地域会員協会連合(ASPAC)、FIDIC アフリカ地域会員協会連合会議(GAMA)の年次大会の様子や、若手技術者の活動の活発化に対する期待などが紹介された。また、ヨーロッパコンサルティング・エンジニア協会連合(EFCA)と FIDIC の連携・活動統合に向けた協議動向や中南米アメリカコンサルティング・エンジニア連合(FEPAC)との交流活動についても紹介があった。FIDIC がリーダーシップを発揮し業界を

牽引するとともに、業界の声として、各国政府や国際金融機関等に対する発言力を持つためには、こうした地域組織や関連団体との協力・協調が不可欠であることが確認された。

続いて Adam Thornton, 理事より会計報告があった。FIDIC の活動費のうち、会費の占める割合は 40 % に留まり、近年は、出版物と FIDIC Red Book MDB 版のライセンスフィーとセミナーが主な収入源となっている。会費に関する課題として、各協会に加盟するスタッフ数を的確に把握する方法や、会員協会数が増えるなか、少数の国が多くの会費を支払う現象が生じていることなどが挙げられた。会費については、経済レベルの違いをどう盛り込むかがポイントであり、継続的な議論が望まれた。

3. 地域活動報告

GAMA からは、重要課題に対するタスクフォースの設置(政府調達公正管理システム: GPIMS など)や、年次大会などについて報告があった。アフリカ版の FIDIC 文書の翻訳・セミナーも進んでいるようであった。

ASPAC からは、3 年間の ASPAC アクションプラン(2007-2009)の報告を行った。この中で能力開発のためのセミナー・WS がメンバー国で実施されている状況や、若手技術者フォーラムの設立準備が進んでいることなどを併せて報告した。

EFCA からは、ヨーロッパにおける経済状況、コンサルタント業界への影響等について報告があった。世界同時不況を受け、EU 及び各国の経済政策がとられているが、失業率はしばらく増加する見通しや、経済活性化のためには減税より新たな投資が必要であるという意見があった。この他、FEPAC からブラジル、メキシコの業界の様子が紹介された。また新たな地域組織として ASMA(Arabic-Speaking Member Associations) の設

立提案がなされた。

4. 終わりに

新興国では、いち早く不況から立ち直り、コンサルタントの地域活動も活発化していることが感じられた。これらの地域では、人材育成や適切な契約方法の導入、

GPIMS等が求められており、これらはパートナーとなる先進国の企業にとっても重要な問題である。

こうした動きに柔軟に対応していくとともに、業界のリーダーとして効率的に活動を展開していくためにも、FIDIC組織の改変は必要不可欠であると感じた。

特集：FIDIC2009 ロンドン大会

FIDIC Business Practice Committee (BPC) Meeting ビジネス・プラクティス委員会

株式会社東京設計事務所 代表取締役副社長
AJCE 副会長 **宮本 正史**

日 時：2009年9月13日 8：30～10：00

場 所：North Suite, Grosvenor House

参加者：Adam Thornton, Chair Rick, Prentice Peter
Rauch, Samarjit Chatterjee
廣谷 彰彦、宮本 正史

欠 席：Fatima Colasan

Thornton 委員長から開会挨拶および欠席委員(Fatima Colasan)の紹介があり、会議が開始された。

1 . 前回議事録の確認

Thornton 委員長が準備した前回会議(2008年9月7日、Quebec, Canada)の議事録が確認された。

2 . Best Practice Guidelines for the Definition of Services(DOS), Buildings & Civil Infrastructure

Prentice 委員が議論を行うための叩き台を配布し、内容を説明した。このガイドラインはコンサルティング・サービスの内容(資料、設計、図面、仕様書、報告書等)を定義することで、顧客とコンサルタント両者の効率的な業務遂行に役立てようとする意図するものである。委員はコメントを11月末までに提出のこと。

3 . Guide to Practice のレビュー

これについては廣谷、Colasan、Prentice の各委員からのコメントが提出された。Prentice 委員がこれらのまと

めを配布。3名のコメントを再度 Prentice 委員が各委員に配布する。他の委員会との調整を理事会で図る。

4 . FIDIC (Client Awards)

昨年 Rauch 委員から提案のあった優秀な顧客の表彰制度について、同氏からスイス協会ではやる価値があるとの結論であり、2013年の大会で実現を図りたいとの説明があった。11月末までに Chatterjee 委員がコメントを提出する。

5 . Quality Based Selection(QBS) Task Force

これについては Thornton 委員長が Colasan 氏(TF リーダー)に既存の図書(Selection Guide)を新たに書き直すように促す。

6 . Safety Task Force

Thornton 委員長から TF メンバーとして、UK、中国、USA、タンザニア、インドのメンバーを考えていることが説明された。

会議冒頭、Thornton 委員長から廣谷委員が FIDIC 理事に選出されるであろうこと、その際この委員会の委員を続けるかは廣谷委員に任せるとの発言があった。

特集：FIDIC2009 ロンドン大会

FIDIC Sustainable Development Committee(SDC) Meeting 持続可能な開発に関する委員会

株式会社東京設計事務所 東京支社長
AJCE 技術研修委員会 FIDIC Policy 推進分科会分科会長 狩谷 薫

日 時：2009年9月13日(日) 9：00～12：00
場 所：Stratton Suite at the Grosvenor Hotel
議 長：William A. Wallace, Wallace Futures Group,
(米国)
参加者：Ike van der Putte(オランダ), Maxime Mazloum
(フランス) Peter Boswell(FIDIC), Andreas
Gobiet(オーストリア) 山下佳彦春公一郎, 狩
谷薫(日本)

1.はじめに

本大会に先立ち、9月13日(日)に9：00より委員会が開催された。

基本的には、事前にメールで配布されていた "Project Sustainability Management Guidelines "(DRAFT #2) (PSM) の内容に関する意見交換、及び現在予定されている来年のインド大会での発表に向けての活動に関する議論が中心であった。従って、特に議事次第も準備されておらず、最初に Wallace 委員長より、Draft # 2 の基本的な考え方の説明、改訂に向けての最近の動向に関する状況説明があり、その後改訂に向けた意見交換を行った。

2.PSM ガイドラインの改定について

2004年のコペンハーゲン大会で発表された PSM ガイドラインの改訂は、ここ数年 Wallace 委員長がプロセスの枠組みを再作成している。今回は今年の5月のドラフトをもとに、委員からの意見を反映させた形で DRAFT #2 が送られてきた。本委員会は、これをもとに意見交換が行われた。

はじめに Wallace 委員長より、今回の改訂の大きな変更として、持続可能な発展(以下、SD)の定義の明確化、プロジェクトの持続可能性への成果効果と道筋効果の明確化、運用に際しての新たなツールの提供等



写真右から、山下事務局長、春氏、Mazloum 氏、Wallace 委員長、Boswell 氏、Gobiet 氏、一人おいて Putte 氏

が説明された。持続可能な開発とは、環境の自浄作用と均衡を保った状態の維持あるいは自浄能力を回復するようなプロジェクトと新たに定義した旨の説明があった。

Mazloum 氏からは、フランスでは顧客は SD を渴望しており、BREEAM(イギリスにおける建物の環境性能評価システム)をもとにした一般的な評価手法と実際のアプローチ(certificate)の検討が進んでいるとの報告があった。顧客は SD とは何か、そのための戦略をいかに作るかを渴望しており、PSM のフレーム見直しは有効であるし、プロセスベースの PSM は貴重なツールとなる。BREEAM や LEED(アメリカにおける建物の環境性能評価システム)には相互尊重の動きがあることから、FIDIC PSM にはこれを包括するような傘型の役割が期待される(PSM コンパチブル)。ただし、現 PSM ガイドラインは一般論に過ぎるので、もう少し具体性を持たせたツールにして欲しいとの要望があった。

Putte 氏からは、LEED や BREEAM など計算法は確立されているものの、これらは利害関係者との関わりが手薄なことから、対抗するためにも、PSM はプロセスやガバナンスに拘るべきという意見が出た。また、何か新たに始めるときには、その結果の可能性が記述されるべき

で、そのためにプロセスとツールが必要であり、ガイドラインの主要な活動に対しては方法(リスク分担)が必要であるとの意見が出た。また、PSMを進めていけば必ず認証の話になるので、それについても考えていく必要があるとのことであった。

FIDICのBoswell氏からは、PSMの内容・表現がエンジニア以外の人に意味をなすかという疑問(リスクの分担等)が述べられ、新たにこれに則ることを義務化するような動き、企業の具体的な取り組み事例等が必要との意見が示された。また、リスク分担なしにPSMは機能しないので、リスクを具体的に明示すべきと主張した。また、品質管理(QM)が最後に記述されているが、最後にチェックするのではなく、プロセス単位でのQMサイクル活用が必要とした。

AJCEからは、プロジェクト指標に関する全体的な持続性評価の考え方が必要であること、実際に現場でガイドラインを運用するためには、安全等を対象としたインフラ事業での具体的な数字が示された適用例が不可欠であることを指摘した。これに関しては、他の委員も同じ意見であった。

ISOでも持続可能性指標が作成中であるが、全ての分野を対象にしているPSMを恐れており、PSMと同等であることが条件となるよう働きかけが必要との意見もあった。また、LEEDなどは地域性を勘案していない点でPSMに劣っており、グローバル指標システムとして、PSMに合わせるべきとの表現をガイドラインに入れてはとの意見も出された。

委員長からは、ASCEでは持続可能な設計に関する委員会、ベンチマーキング委員会があり、プロジェクトの評価事例を収集し、顧客への提案と説得を画策するとともに、認証システム、分野ごとの20-25年後の技術ロードマップ作成を進めているとの情報提供があった。

3. 今後の活動およびまとめ

委員長より、指摘のあった点に関しては再度検討を行い、必要に応じて変更を行うとの説明があり、以下のとおり今後の具体的な作業の進め方及びまとめが報告された。

ガイドラインに不足している項目があれば、1ヶ月以内程度で委員長に知らせる

具体的にPSMへの追加・修正等の要望があれば、随時委員長にメール等で報告する

利害関係者との協働に関しては、委員長が文章を補足する。

リスク分担のバランスを図るプロセスに関しては、委員長が記述を行うが、情報等があれば、委員長に送付する

各国で現実的なPSMの適用事例、同様な検討をした事例があれば、資料を委員長に送る(AJCEで簡単に検討した長良川プロジェクトは仮想的な適用事例なので、ガイドラインに載せるのは適当でない旨は説明済み)。これを基に、2～3ページの適用事例を追加する。

関連する他協会の動きに注目し、コンタクトを保ってゆく必要があり、メール等でこれに関する情報交換を行う(ASCE、EFCA、オランダのデルタプログラム)

また、活動的な委員のリクルートが必要である(特に中国・インド等)

PSMの次期バージョンは委員によるレビューの後、他の機関にも送って読んでもらう予定である

特集：FIDIC2009 ロンドン大会

Risk & Liability Committee (RLC) リスク&ライアビリティ委員会

株式会社日水コン 河川事業部副事業部長
AJCE 国際活動委員会副委員長 藏重俊夫

日 時：2009年9月14日 12：00～14：30

場 所：ルーム番号3/12 QE コンファレンスセンター

参加者：Kevin Corbett(Chair, UK), Steve Bamforth
(UK), Steve Jenkins(NZ),
Toshio Kurashige(Japan), Nicola Grason
(Australia), Malcolm Padayachee(SA), Meggyn
Visser(SA), Andreas Gobiet(Austria), Adam
Thornton(NZ)

1. プログラムの概要

RLC では、昨年のケベック大会で以下のタスクが合意され、今回の委員会では、そのフォローアップを中心とした報告及び討議がなされた。

リスクマネジメントの各国協会アンケート

度重なるアンケートは会員協会の負担になるとの事務局意見もあり、ケベック大会時のワークショップにて実施された参加者の意見収集で完了したものとみなし、今回は討議なしとした。

リスクマネジメント新ガイドの策定

責任制限(Limitation of Liability)に関する FIDIC
ポリシーの見直し

保険入門書(Risk Primer)の見直し

2. リスクマネジメント新ガイドについて

策定作業は完了し、製本版が今大会で公表・配布された。議論のあった事項は以下の通り。

- ・今大会では、RLC 主催セミナーがなく、紹介や公表の場が用意されていない。そのため、Adam のほうで、大会期間中に新ガイドの紹介の場を設定することとなった

- ・今後、同ガイドは販売の方向とするのかどうか等、理事会での判断が必要とした
- ・AJCE では、翻訳を検討中である

3. 責任制限について

豪州ではクライアントに強く働きかけ、一部成功しているが、南アではクライアントの強い拒絶にあっている。委員会としては、いくつかの FIDIC ポリシーにみられる責任制限の表現が統一的でなく、見直しの必要性を合意しているが、クライアントとの見解の相違もあり、理事会の意向も必要である。いずれにしても、ポリシー・ステートメントの改訂は今後の課題として取り組んでいく。

4. 保険入門書について

既出版のリスク関連ガイドのうち、保険入門書は重要であり、Steve 委員が改訂作業中。

5. その他意見交換

Guide to Practice(G2P): 能力開発委員会(CBC)の活動が滞っており当委員会でのリスク部分の改訂も宙に浮いた状態であるが、近々に CBC の強化が図られる予定。活動はその段階で考えることとする。その際、国による文化の違い、経済環境の変化に伴うリスクの焦点の変質を考慮する必要がある。さらに、民法社会や慣習法社会の相違も考慮する必要がある。

Health & Safety 問題は今後リスク管理の重大な懸案となってくるとの見方で意見一致。特に、米国や南アにおいて CE の責務が大きく問われ、一部裁判となっている。

特集：FIDIC2009 ロンドン大会

Directors & Secretaries Meeting 事務局長会議

AJCE 事務局長 山下佳彦

日 時：2009年9月12日 9:00-17:00

場 所：ロンドン市内の Grosvenor House

参加者：33カ国 40名

アジア地域からは日本(AJCE)、韓国、マレーシア及びフィリピンが参加した

会議の概要

議事進行は Klaus Rollenhagen 氏(ドイツ)とカナダの John Gamble 氏(カナダ)が担当した。参加者の自己紹介のあと、2つのセッションが設けられ12協会がプレゼンを行った。セッション後は4テーマにつき討議と総括が行われた。本稿ではセッションでの報告を主に報告する。

セッション1：世界的な経済不況とその対応策

世界的な経済不況が自国経済やコンサルティング・エンジニア(CE)産業に与えた影響、政府の対策、政府の対策策定においてCE業界が果たした役割などについて以下の報告があった。

アジア：日本は景気刺激策として補正を含め公共事業が有効な施策と期待されているが、政権交替により不透明な状況にある。マレーシアは品質・技術による選定(QBS)を推進。

アフリカ：南アはローカルCEを取り込んだ新たなパートナーシップを模索。ウガンダは石油・エネルギー産業の発展と環境問題の台頭。国際協力機構(JICA)の支援を期待。ケニヤは増大するインフラ整備に対し、基準の未整備、技術者不足、災害、外資不足等が課題。

米国：オバマ大統領やクリントン上院議員、TVなどを通じて、政策決定の場に参画。景気刺激策として公共事業費を確保。また、経済危機への生き残り18訓を紹介。

欧州：デンマークは、景気刺激策により2009年、2010年はインフラ事業が増大したが、CE業界は苦



戦している。ハンガリーは、景気刺激策なし。アイルランドは政権交代により多くの事業がストップ。政府は公共事業の重要性を理解しないため、ロビーをとおし説得に尽力。

セッション2：CE業界の施策

セッション1で報告された各国の状況を踏まえ、各国のCE業界の取り組みにつき報告があった。

QBS：米国はQBSに関し100事例を比較検討し、QBSが最適な調達方法であることを確認した。

持続性：フランスは技術を green tech にシフトすべく模索している。新技術開発と共にプロセスの加速化が重要である。これに対応するには我々のやり方を再構築する必要があり、まず地域レベルの取り組みから実施することが望ましい。変化に対応できない企業は去るのみ。

優秀な人材の確保：厳しい経済状況下で人材の流出が懸念されるなか、豪州は、副大臣の支援を受けた大学生向けプロモーションDVDの作成、多種多様なキャリアパスの創生、産学協同の育成プログラム、若手エンジニアの育成プログラム等の取り組みを紹介した。

おわりに

昨年の会議では多くのCE企業が事業機会に恵まれ、人材不足で悩んでいることが報告されたが、経済不況下にある今年の会議では、経済的理由で参加できな

った協会も多い。このような背景を踏まえ、ロビー活動、TV、プロモーションDVD等をとおした生き残り戦略、協会会員にとってメリットが高い活動の推進、優秀な人材の育成と確保等が真剣に議論された。これらはFIDIC

創設以来変わらない命題と思われるが、毎年違いがあるとするれば、「目標に向かって歩んだ道のり」ではないだろうか。

特集：FIDIC2009 ロンドン大会

FIDIC-2009 ロンドン大会の参加報告

いであ株式会社
内部統制本部室長 田畑 彰久

会社からの要請でFIDIC-2009 ロンドン大会への参加が決定したのは大会の開催される約2ヶ月前の7月上旬であった。これまで研究者として海外での調査や国際会議での発表等の経験はあったが、コンサルタントとして海外業務の経験がなかったため、恥ずかしながらFIDICだけでなくAJCEの存在を知らなかった。そこで、参加が決まった後、AJCEのHPや会報、30年史等によってFIDICやAJCEの活動目的やこれまでの活動概要について理解を深めるとともに、本大会のプログラム概要を把握することで会議に備えた。

9月12日の正午前に我々を乗せたVS-901便は小雨の中ほぼ定刻どおりに成田国際空港を出発し、約12時間のフライトの後、定刻の約30分遅れで同日の夕刻ヒースロー空港に到着し、出迎えのガイドと共にリムジンバスでホテルへ向かった。この日の夜は同じホテルに宿泊しているAJCE関係者の方々とホテル近くのパブでエールやスタウトなどの地ビールやイギリスの伝統料理であるフィッシュアンドチップスやパイ料理を楽しんだ。

翌13日は朝から観光客で溢賑わっているバッキンガム宮殿の正面ゲートの前を通り広大なセントジェームスパークを抜け約30分かけて事前登録の会場であるグローバルハウスホテルへ行き、会議の登録を済ませ、翌日からの会議場となるQueen Elizabeth Conference Centreの場所を確認した。会場は世界遺産であるウエストミンスター寺院、同じく世界遺産であり「ビック・ベン」の愛称で親しまれている国会議事堂、政府庁舎、外務省、首相官邸等がある中央官庁街に位置していた。夜

は王立裁判所で開催されたウェルカムレセプションに参加し、1982年に完成した荘厳なゴシック様式に圧倒されるとともに世界各国のエンジニアとの交流を楽しんだ。

今回のFIDIC2009のロンドン大会のメインテーマは「Global Challenges Sustainable Solutions」であった。会議全体を通じて、コンサルタントエンジニア業界が直面している地球規模の課題を整理し、コンサルタントエンジニアの役割を検討した上でその持続的な解決策について一定の結論を導きだすために様々な角度から議論が行われた。しかしこの問題の重要性やそれを解決するための必要性は世界共通の認識だと感じたものの、世界70数カ国の技術者が参加しているこの会議に参加して、改めて各国の政治的な立場、経済状況、技術レベル等によって同じ問題に対する認識の度合いやそのアプローチにはかなり隔たりがあることを実感した。

一方、YPFに参加して自分と同年代であろう技術者が顧客満足度の重要性や顧客満足度を高めるための方策等について発表しているのを聞いて、国境を越えて同様な問題意識を有していることもわかった。

その他、環境コンサルタントの立場として本会議でCO₂排出の削減についての話題が活発であったことは喜ばしいことであったが、生物多様性等を維持することの重要性についてほとんど議論がなかったことについて少し残念に感じた。

最後に、初めて参加した本大会で廣谷会長、山下事務局長をはじめAJCE関係者の皆様にご世話になったことをこの場を借りて感謝申し上げます。